

平成 3 0 年度 海外研修事業報告書

第 1 8 回ベトナム社会主義共和国派遣



ホーチミン市 統一会堂にて

*WEB 上の報告書においては、生徒が特定できる写真、氏名等については配慮いたしました。

Hanoi, Ho Chi Minh, Socialist Republic of Vietnam

研修期間：平成 3 0 年 7 月 2 1 日 ～ 7 月 2 8 日

協 力：Hanoi Industrial Vocational College

Vietnam-Japan Human Resources Cooperation Center



公益社団法人 全国工業高等学校長協会
国際化事業推進委員会

目 次

1. はじめに	2
2. 第18回高校生海外研修実施要項	3
3. 海外研修日程表	5
4. 海外研修 結団式・事前研修	6
5. 海外研修での挨拶	7
6. 海外研修の概要	10
7. 参加者の報告	28
8. アンケート結果	69
9. 結びに	74



1. はじめに

国際化事業推進委員会委員長 早 川 信 一
(東京都立多摩工業高等学校長)

公益社団法人全国工業高等学校協会主催「第 18 回高校生海外研修」が 7 月 21 日（土）～7 月 28 日（土）の 8 日間の日程で実施されました。第 18 回を迎える今年度の高校生海外研修は、昨年同様、ベトナム社会主義共和国で行われ、今回で 3 回目になります。

日本においてもグローバル化が加速的に進展し、「グローバル人材の育成」や「持続可能な開発目標（SDGs）」など、かつてこれほど国際教育が注目されることはなかったでしょう。そのような時代の流れに先駆けて、全国工業高等学校長協会では、平成 13 年度から国際感覚を身に着ける必要性を鑑み、「高校生海外研修」を毎年の事業の一環として実施してきました。

現在は、日本と外国という視点で関わっていたインターナショナルではなく、国境や文化、言語の違いなどの垣根を取り払い、一人ひとりが「地球市民」の一員として世界の人々と関わり合う時代になってきました。いわば、現代の社会は一人一人がグローバルに活躍するチャンスに溢れているということです。グローバル社会を生きる生徒の皆さんについて考えてみると、例えば、スマートフォンなどの機器を容易に操る皆さんは、いつでも世界と繋がることができます。そして、各地域の課題なども地球規模のひとつの問題として捉えていくことができる時代なのです。

平成の 30 年間に日本に住む外国人の数は 2.5 倍に増え、現在は約 130 万人の外国人が労働者として人手不足の日本経済を支えているといわれています。これまで外を向いていた国際交流や国際協力ですが、これからは、ごく身近な地域や社会の一員として生活している外国人といかにかうまく「共生」していくべきかを考えていく必要があるのです。近年では、日本に住むベトナム人の外国人登録者数は増加する傾向にあります。日本とベトナムとの関係は今後ますます深いものになっていくでしょう。そのベトナム社会主義共和国へ将来の日本を支えていく 21 名の工業高校生が訪問することは、とても重要な意味合いを持つといえます。

高校時代の 3 年間は人生の中でもっとも好奇心や知識欲にあふれ、学んだことを何でも吸収できる貴重な時期です。心身ともに成長する高校生の皆さんが海外を経験することは、何事にも代えがたい大変貴重な体験になります。そして、諸外国に対するこれまでの先入観や固定観念にとらわれない柔軟性を備えたこの時期に、異文化に触れて多様な経験することは皆さんの将来に大きなプラスになると確信しています。

皆さんはこの研修を終えるとそれぞれの地元に帰り、普段の高校生活に戻ります。8 日間という短い期間でしたが、この海外研修で得た様々な経験をたんなる経験として終わらせるのではなく、工業技術を学ぶ国際人として国際社会に貢献できる人材として活躍してくれることを期待しています。そして何より、今回のベトナム研修に参加しようと考えた積極性と行動力（チャレンジする気持ち）を今後も常に持ち続けて欲しいと思っています。

最後に、本研修を実施するにあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。国際化事業推進委員会は、今後も「高校生海外研修」をはじめとした国際化事業の推進に努めてまいります。

2. 第18回高校生海外研修実施要項

① 第18回高校生海外研修実施要項

1 目 的

国際化時代を迎え、工業高校においては国際感覚を身に付ける教育が求められている。このような社会状況に鑑み、本協会では工業教育の活性化を図る事業の一環として本研修を実施する。

2 期 日

平成30年7月21日（土）～7月28日（土）の8日間

3 研修地

ベトナム社会主義共和国（ハノイ市、ホーチミン市、等）

4 研修内容

現地学生との交流、学校見学、企業見学、文化技術交流等

5 宿泊先

ホテル（ホーチミン市内、ハノイ市内、ハロン湾近郊）

6 経 費

（1）自己負担

① 参加費 3万円

② 自宅と成田空港間の交通費、パスポート申請料、燃油サーチャージ、空港使用料、任意の海外保険等は、自己負担とする。

（2）補 助

① 国際線の航空運賃及び現地の交通費、宿泊費、食費等は、全工協会が補助する。

② 遠方からの参加者には成田空港までの往路に関わる交通費の一部を全工協会が補助する。

7 参加条件

次の（1）～（3）をすべて満たす生徒

（1）全工協会の会員校に所属し、学業・人物ともに優秀で、所属校長と地区代表校長の推薦する生徒

（2）他の海外研修等に参加した経験のない生徒（修学旅行を除く）

（3）国際的な感覚を身に付け、今後の学校生活に意欲をもって取り組める生徒

8 参加人員

25名（生徒22名、引率3名）

<9地区ブロックの生徒推薦枠>

北海道1、東北3、関東4、北信越2、東海3、近畿3、中国2、四国1、九州3

引率は全工協会から委嘱する。

9 推薦手順

参加希望者は「海外研修参加申込書」と「参加理由書」（A4 用紙 800 字程度）を所属校長へ提出する。

所属校長は地区代表校長の推薦を得て書類を全工協会へ提出する。

※「海外研修参加申込書」と「参加理由書」の様式は本協会HPからダウンロードする。

10 応募締切

平成 30 年 5 月 18 日（金）厳守（消印有効）

＜応募書類提出先・問い合わせ先＞

公益社団法人全国工業高等学校長協会 事務局長 山田勝彦

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-8-1

TEL 03-3261-1500 yamada@zenkoukyo.or.jp

② 第 17 回高校生海外研修における教員参加実施要項

生徒海外研修実施要項の項目「1～6、10」を準用し、「7～9」は、次のとおりとする。

7 応募条件

会員校の教員（校長の推薦する者）

8 募集人員

若干名（教員枠は、参加生徒数が定員に満たない場合に、定員（22 名）から生徒数を引いた数とする。ただし、生徒の定員が満たされた場合は、教員枠は「0」とする。）

9 応募手順

- （1）参加希望者は、「海外研修参加申込書」並びに「参加理由書」（A4 用紙 800 字程度）を作成し、所属校長を通して全工協会へ提出する。
- （2）書類の様式は、本協会HPよりダウンロードする。保護者氏名・学年等の不必要な箇所は空欄とし、「生徒氏名」は「教員氏名」とする。
- （3）校長から推薦された候補者を国際化事業推進委員会で選考して、所属校長へ通知する。

※その他

- （1）現地では引率者の指示に従い、生徒と同じ日程で行動する。
- （2）帰国後、各自報告書（全工協会指定の形式）を提出する。

＜応募書類提出先・問い合わせ先＞

公益社団法人全国工業高等学校長協会 事務局長 山田勝彦

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-8-1

TEL 03-3261-1500 yamada@zenkoukyo.or.jp

3. 海外研修日程表

月日	曜日	発着地・滞在地	現地時間	交通機関	行動予定・宿泊	食事
7/21	土	成田空港 レストハウス	15 : 00 15 : 30 17 : 45	各自	前日集合 結団式・事前研修 〈レストハウス泊〉	夕食
7/22	日	レストハウス発 成田空港発 ホーチミン着 ホテル着	07 : 00 09 : 30 13 : 15 16 : 00	専用車 VN301	空港第1ターミナルへ移動 出国手続き 入国手続き、市内見学（サイゴン大聖堂、統一会堂、戦争証跡博物館等） 〈ホーチミン・ホテル泊〉	朝食 機内食 夕食
7/23	月	ホーチミン市 ホテル着	午前 午後 16 : 30	専用車	企業見学（ヤクルト） 平和学習・戦跡見学（クチトンネル等） 〈ホーチミン・ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
7/24	火	ホーチミン市 ホーチミン発 ハノイ着 ホテル着	午前 午後 17 : 10 19 : 20 20 : 30	専用車 VN262	ホーチミン貿易大学の学生との交流（VJCC（ベトナム日本人材協力センター）訪問） ハノイへ移動 〈ハノイ・ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
7/25	水	ハノイ市 ホテル着	午前 午後 夕刻	専用車	工業系大学等の見学（Hanoi Industrial Vocational College） ベトナム学生との交流（B & S（Brother & Sister）プログラム） 〈ハノイ・ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
7/26	木	ハノイ近郊 ホテル着	午前 午後 夕刻	専用車	市内見学（ホーチミン廟、文廟、ホアンキエム湖等） 異文化交流（バッチャン焼き絵付体験） 〈ハノイ・ホテル泊〉	朝食 昼食 夕食
7/27	金	ハノイ近郊 ハロン湾 ホテル着	午前 午後 21 : 00	専用車	ハロン湾へ移動 世界遺産見学（ハロン湾クルーズ） 出国手続き	朝食 昼食 夕食
7/28	土	ハノイ発 成田空港着	00 : 20 07 : 00 08 : 00	VN310	〈機中泊〉 入国手続き 事務連絡、解散	機内食

4. 海外研修 結団式・事前研修

日 時：平成30年7月21日（土） 15：30～17：30

会 場：成田エアポートレストハウス ブルースカイの間

結団式：司会（全国工業高等学校長協会事務局長）

山田勝彦

- 1 開式の言葉 国際化事業推進委員（東京都立多摩工業高等学校長） 早川信一
- 2 挨拶 ①全国工業高等学校長協会 理事長（東京都立六郷工科高等学校長） 佐々木哲
②団長・国際化事業推進委員（埼玉県立三郷工業高等学校長） 山本康義
- 3 引率者紹介 ①団長・国際化事業推進委員（埼玉県立三郷工業高等学校長） 山本康義
②引率（東京都立足立工業高等学校 主任教諭） 川邊美栄
引率（東京都立六郷工科高等学校 教諭） 滝本直美
③添乗員（東日観光株式会社） 岩原学美
- 4 参加生徒自己紹介
- 5 生徒宣誓 香川県立観音寺総合高等学校（電子科 3年） 生徒
- 6 閉式の言葉 国際化事業推進委員（神奈川県立藤沢工科高等学校長） 居石博幸
- 7 写真撮影
- 8 事前研修 ①日程及び内容説明 ②報告書作成 ③ベトナムの状況
④全般的な諸注意 ⑤その他
- 9 出席者 参加生徒（下表参照）及び保護者
国際化事業推進委員会：早川信一、山本康義（引率）、居石博幸
引率者：川邊美恵、滝本直美 理事長：佐々木哲
事務局：山田勝彦事務局長、石井末勝事務局次長、鈴木賢二事務局次長
旅行者：猶江健博、岩原学美（東日観光株式会社）

参加生徒21名、教員1名 合計22名			
都道府県	学校名	都道府県	学校名
北海道	旭川工業高等学校	東海	大垣工業高等学校
東北	寒河江工業高等学校	東海	桑名工業高等学校
東北	米沢工業高等学校	近畿	大阪市立工芸高等学校
東北	郡山北工業高等学校	近畿	大阪市立西高等学校
関東	水戸工業高等学校	近畿	飾磨工業高等学校
関東	那須清峰高等学校	中国	出雲工業高等学校
関東	高崎工業高等学校	中国	福山工業高等学校
関東	進修館高等学校	四国	観音寺総合高等学校
北信越	新津工業高等学校	九州	小倉工業高等学校
北信越	駒ヶ根工業高等学校	九州	佐賀工業高等学校
東海	春日井工業高等学校	教員	半田工業高等学校

5. 海外研修での挨拶

1. 結団式における生徒宣誓

香川県立観音寺総合高等学校
電子科3年 生徒

全国工業高等学校長協会主催「第18回高校生海外研修」の参加にあたり、参加者を代表して宣誓します。

私たち22名は、日本の工業高校生の代表として、この海外研修に参加します。ベトナムの歴史や文化、技術に触れ、その発展の様子を学びたいと思います。それは日本の工業の在り方や課題について考え、より一層の発展につながるのだと思います

また現地の方々と積極的に交流し異文化の理解に努めるとともに、日本の文化についても伝えたいです。この8日間の貴重な経験を通して視野を広げ、今後の目標を明確にできるように真摯に取り組むつもりです。

この海外研修を企画してくださった方々に感謝し、一つでも多くのことを学び、感じて、帰ってこられるように、研修に努めることをここに誓います。

2. 結団式における団長挨拶

第18回海外研修 団長 山本 康義
(埼玉県立三郷工業技術高等学校長)

皆さん、こんにちは。この度、第18回高校生海外研修の団長を仰せつかりました、埼玉県立三郷工業技術高等学校長の山本と申します。教科は国語でございます。どうぞよろしく願いいたします。

さて、海外研修に参加される皆さん、いよいよ、結団式の当日がやってまいりました。

今年で18回目を迎える高校生海外研修は、平成28年度から派遣先をベトナム社会主義共和国に変え、3年目になります。国際化時代を迎え、工業高校において、国際感覚を身に付ける教育が求められている社会状況に鑑

み、公益社団法人全国工業高等学校長協会が、工業教育の活性化を図る事業の一環として実施するものです。

今回も、全国の各地域から、21名の生徒の皆さんが選抜され、この研修に参加することになりました。例えば、埼玉県が所属する関東地区からは、今年は茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県から1名ずつ、計4名の参加となっています。まさに、各都道府県、各地域の代表として参加いただいています。このことの重みを受け止めていただくとともに、改めて、自覚を促したいと思います。

今回、団長として皆さんを引率するにあたり、皆さんが提出した「参加理由書」に、改めて目を通させていただきました。現在、学校で学んでいる工業科の専門分野における興味関心から始まり、将来の進学や就職の希望に至るまで、それぞれ、具体的で個性的で素晴らしい内容で、皆さんの目的意志の高さを感じ取ることができました。

中でも、デザインを学んでいる米沢工業のM君は、「デザインの思考には多くの知識と経験が必要」と書いてくれました。このことは、工業のその他の学科を専攻されている皆さんにも通じるところがあると思います。工業高校で学ぶ皆さんは将来、モノをつくり出す人、つまり「クリエイター」になるのだと思います。「クリエイター」になるには、「クリエイティブ」な思考、発想が必要です。M君のことばを借りて、今回の海外研修で得ることになる「多くの知識と経験」を、「クリエイター」としての皆さんの「クリエイティブ」な思考・発想に、大いに生かしていただくことを願っております。

結びに、本研修の主催者である公益社団法人全国工業高等学校長協会理事長の佐々木哲様、早川信一委員長をはじめとする国際化事業推進委員会の皆様、並びに本研修をご準備くださいました山田事務局長をはじめとする事務局の皆様、また、今回の研修全般でお世話になります猶江健博様をはじめとする株式会社東日観光の皆様に改めてお礼申し上げ、

団長あいさつに代えさせていただきます。

それでは、高校生海外研修が始まります。
健康と安全に十分留意して、一緒に海外研修
を成功させましょう。どうぞよろしくお願い
いたします。

3. ヤクルト・ベトナム工場訪問時における 団長挨拶

第18回海外研修 団長 山本 康義
(埼玉県立三郷工業技術高等学校長)

皆さん、おはようございます。全国工業高
等学校長協会高校生海外研修団長の山本と申
します。

この度はお忙しい中、昨年度に引き続き、
私たちの海外研修を受け入れてくださいまし
て、誠にありがとうございます。

現在、日本では、少子高齢化の影響への対
応が声高に叫ばれており、今後、人口増加の
拡大が見込まれる、アジア諸国への注目の度
合いが、ますます高まっております。

一昨日行われました、今回の海外研修の結
団式におきましても、本協会理事長の佐々木
哲から、「ベトナムの日系企業の躍進ぶりをし
っかり学んでくるように」との激励を受けて
まいりました。

本日お世話になる生徒たちは、北は北海道
から、南は九州まで、日本全国から選抜され
た、ふだんは工業を勉強している高校生です
が、中には、「日本とベトナムの工場の違い」
や、「一緒に仕事をする上でのベトナム人との
コミュニケーションの取り方」など、具体的
な課題意識を持って参加している者も多くお
ります。

今回の海外研修の日程の中では、実際に現
地で活動されている日系企業の工場を見学で
きる貴重な機会ということで、貴社の訪問を
大変楽しみにしておりました。

ご迷惑をおかけいたしますが、どうぞよろ
しくお願いいたします。

4. ベトナム日本人材協力センター (VJCC) 訪問時における団長挨拶

第18回海外研修 団長 山本 康義
(埼玉県立三郷工業技術高等学校長)

皆さん、おはようございます。全国工業高
等学校長協会高校生海外研修団長の山本と申
します。

この度はお忙しい中、私たちの海外研修を
受け入れてくださいまして、誠にありがとう
ございます。

ベトナム日本人材協力センターでは、活発
な日本企業の進出を背景に、日本語教育、両
国の社会や文化についての相互理解の向上、
日本の経済団体、教育機関、地方自治体等と
のネットワークの拡大に資する事業を行って
いらっしゃると伺っております。

本日お世話になる生徒たちは、北は北海道
から、南は九州まで、日本全国から選抜され
た、ふだんは工業を勉強している高校生です。

今回の海外研修の日程の中では、皆様と交
流のできるベトナム日本人材協力センターの
訪問を、大変楽しみにしてまいりました。

団長である私を筆頭に、ベトナム語も英語
も不慣れなものが多く、ご迷惑をおかけいた
しますが、みな、皆様とコミュニケーション
を取りたいという強い気持ちを持っておりま
すので、どうぞよろしくお願いいたします。



VJCC における竹とんぼ体験

5. ハノイ工業職業訓練短期大学（HIVC） 訪問時における団長挨拶

第18回海外研修 団長 山本 康義
(埼玉県立三郷工業技術高等学校長)

皆さん、おはようございます。全国工業高等学校長協会高校生海外研修団長の山本と申します。

この度はお忙しい中、私たちの海外研修を受け入れてくださりまして、誠にありがとうございます。

ハノイ工業職業訓練短期大学では、旋盤2級など、日本式の技能検定取得者を多数輩出されているほか、自動車修理部門のコンクール東南アジア大会で優勝した経験があるなど、より実践的な教育を行っていらっしゃると思います。

本日お世話になる日本の生徒たちは、北は北海道から、南は九州まで、日本全国から選抜された、ふだんは工業を勉強している高校生です。

今回の海外研修の日程の中では、皆様と交流のできるハノイ工業職業訓練短期大学の訪問を、大変楽しみにしてまいりました。

団長である私を筆頭に、ベトナム語も英語も不慣れなものが多く、ご迷惑をおかけいたしますが、みな、皆様とコミュニケーションを取りたいという強い気持ちを持っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

6. 解団式における団長挨拶

第18回海外研修 団長 山本 康義
(埼玉県立三郷工業技術高等学校長)

皆さん、お疲れさまでした。

7泊8日のベトナム研修を終え、無事に帰国することができました。

旅行中の生徒の皆さんの生活態度は大変立派でした。大いに助けていただきました。派遣元の各県の校長先生にも、しっかり伝えたいと思います。

さて、最後に、大切なことを一つだけお話

します。それは、みなさんにとっては、この後の行動が、とても大切だということです。

日本の政府がやっている「トビタテ！留学JAPAN」という事業について、聞いたことがある人も多いのではないかと思います。この事業では、留学から帰ってきた人たちに、「エヴァンジェリスト活動」というものを義務付けています。エヴァンジェリストとは、「伝道師」のことですが、帰国後に、留学生増加のために、自分の地域や学校等で留学の魅力や留学で得た体験を周囲に伝え広める活動のことを指すようです。

この後みなさんは、例えば進路活動などで、今回の体験をアピールする機会もあるかと思いますが、ただ海外に行ってきた、というだけでは、アピール度は低いと思います。海外で得た体験を、帰国後に、どのような活動で生かしたのか、この実績がものをいうのではないかと思います。

今回の海外研修、ただ行ってきただけでは、価値が半減します。みなさん自身が考えて、みなさん自身が行う今後の「エヴァンジェリスト活動」に価値があるのです。このことをぜひ、忘れないでいただきたいと思います。

台風が接近しております。家に着くまでが海外研修です。気を付けてお帰り願います。

以上をもちまして、解散とさせていただきます。ありがとうございました。



6. 海外研修の概要

第18回海外研修 団長 山本 康義
(埼玉県立三郷工業技術高等学校長)

1. はじめに

今年で18回目を迎える高校生海外研修は、平成28年度から派遣先をベトナム社会主義共和国に変え、3年目になる。国際化時代を迎え、工業高校において、国際感覚を身に付ける教育が求められている社会状況に鑑み、公益社団法人全国工業高等学校長協会が、工業教育の活性化を図る事業の一環として実施するものである。

現地の日本企業の訪問をはじめ、ベトナム日本人材育成センターやハノイ工業職業訓練短期大学の学生との交流など、躍進著しいベトナムの現在を肌で感じることでできるプログラムとした。

今回の海外研修で得た知識と経験が、クリエイティブな思考・発想を持つ、世界に羽ばたくクリエイター（創造者）の育成につながることを期待する。

2. 研修参加者

生徒は3年生6名（男子6名・女子0名）、2年生15名（男子9名・女子6名）の計21名。生徒枠に欠員が生じたことから、規定により、山口貴士（愛知県立半田工業高等学校教諭）が参加した。

引率は、山本康義（埼玉県立三郷工業技術高等学校長）、川邊美栄（東京都立足立工業高等学校主任教諭）、滝本直美（東京都立六郷工科高等学校教諭）が務めた。

3. 活動内容

1日目（7月21日（土））

成田エアポートレストハウスに15:00に集合し、15:30から結団式及び事前研修を行った。

結団式は、佐々木哲理事長の熱い激励に始まり、参加生徒の自己紹介、生徒代表宣誓、

記念撮影が行われた。

事前研修では、日程の確認、諸注意、班編成及び班長決め等がスムーズに行われ、都道府県代表である自覚も高まり、研修への参加意識は一気に高まった。



結団式後の集合写真

2日目（7月22日（日））

6:30にホテル1階のレストラン「レインボー」にてバイキング形式の朝食を済ませ、7:00にホテルを出発、9:30にベトナム航空 VN301便で成田空港を出発した。およそ6時間弱のフライトであったが、2時間の時差の関係もあり、現地時間の13時過ぎに、ホーチミン市のタンソンニャット国際空港に到着した。

専用バスで市内観光を行った。南ベトナム大統領官邸であった統一会堂は、現在は公開され、観光名所となっている。風通しを意識した建物のづくりが印象的であった。19世紀に建てられた中央郵便局とサイゴン大教会は、通りを隔てて隣あって建てられていた。戦争証跡博物館には、ベトナム戦争で実際に使用された戦車や戦闘機、ギロチンなどが展示されており、戦争の生々しい傷跡を確認することができた。ベント市場やドンコイ通りでは、活気溢れるホーチミン市の現在を肌で感じることもできた。

夕食は、サイゴン川のディナークルーズを体験した。エアコンのない風通しのよい船上で、サイゴン川の夜景の美しさを堪能した。



戦争証跡博物館

3日目（7月23日（月））

午前中は日系企業であるヤクルトのベトナム工場を訪問した。団長挨拶の後、工場長自らによる説明を受け、工場内を見学した。ベトナムで生産するヤクルトは、現在日本では使用しなくなった砂糖を使用しているため、懐かしい味がすること、ハノイへの輸送に3～4日かかるため、日本より長い4週間の賞味期限を設定していることなどが明らかになった。質疑応答では多くの生徒から質問が出された。人件費やベトナム人労働者との意思疎通のはかり方など、経営面に関することも話題となり、生徒の日系企業への関心の高さがうかがわれた。



ヤクルト・ベトナム工場訪問

午後は、風通しのよいレストランでのベトナム料理の昼食の後、ベトナム戦跡の一つであるクチトンネルを体験した。アメリカ軍の空爆に抵抗し、解放勢力が手掘りで掘り進めた総延長約250kmにも及ぶトンネルである。

生徒たちは、度々襲ってくるスコールの中、

20mのものを手始めに、様々な長さのトンネルに果敢に挑戦した。豪雨の中バスに戻ったため、多くの生徒が全身ずぶ濡れになったが、ベトナムの気候を肌で感じるよい経験となった。

夕食は市内のホテルのレストランで、民族舞踊のディナーショーを体験した。このころには、多くの生徒が「シンチャオ」（こんばんは）という挨拶が自然とできるようになった。

4日目（7月24日（火））

午前中に、日本とベトナムの両国政府の合意のもとに設立された人材育成機関であるベトナム日本人材協力センター（VJCC）を訪問した。

団長挨拶の後、センター職員に用意していただいたプログラムに従って、約2時間半にわたって現地の学生と交流を行った。

自己紹介、センター職員手づくりのかかるたゲーム体験、外に出ての、羽根を蹴るベトナムのゲーム体験、日本から持ち込んだ竹とんぼの体験、ベトナム・日本双方が用意した歌の披露の後、最後は全員でベトナムの歌を歌い、記念撮影を行った。



ベトナム日本人材協力センター訪問

はじめは日越双方ぎごちなさが目立っていたが、プログラムが進むにつれて打ち解け、終盤に向けて大いに盛り上がった。当日集まっていたいただいたベトナムの学生は20歳前後ということであったが、日本語を勉強しているだけあってみな日本語が堪能で、楽しい交流のひとときを過ごすことができた。

飲茶の昼食の後、ホーチミン市の歴史博物館を見学した。ベトナムのほか、中国、チベット、タイ、カンボジア、日本などの近隣諸国における仏教伝来の状況を比較する展示など、独自の視点を感じることができた。比較することにより、日本における仏像の技術の高さが際立って感じられ、我が国のものづくり立国の原点を垣間見たような気持ちになった。

その後、空路にてハノイに移動した。16:00ごろ軽めの機内食をいただいた生徒たちは、20:00過ぎにハノイのレストランでベトナム料理のディナーに挑戦した。矢継早に出される料理に舌鼓を打ちつつ会話も弾み、生徒間の相互理解もさらに深まった。

5日目（7月25日（水））

午前中はハノイ工業職業訓練短期大学（HIVC）を訪問した。交流式典では、両国からの挨拶に始まり、HIVC 創立40周年を記念して作成されたビデオを鑑賞した。その後、学長の案内で校内を見学した。韓国企業であるサムスンやヒュンダイの協力によってつくられた施設が目をつけた。質疑応答では、日本の生徒からも、躍進著しい韓国企業と日本企業を対比する視点から、積極的な質問が出た。学長からは、HIVC は以前から、韓国だけでなく、ドイツやロシアなどからも支援を受けており、先日 JICA の職員が来校し、日本からの新たな支援も取り付けたところである。今後とも、日本からの支援は必要なものと考えているとの回答があった。



ハノイ工業職業訓練短期大学訪問

別れ際には、空手の心得のある日本の生徒が、4か所の板を割るパフォーマンスを披露し、大いに盛り上がった。今後とも日越の交流を継続することを誓い合い、訪問先を離れた。

午後は、ブラザー&シスター（B&S）プログラムを行った。フランス風中華料理のレストランで、日本語の堪能な5名のハノイ大学の学生と合流し、昼食を楽しんだ。ビンコムセンター内のスーパーから、ハノイの現在を肌で感じることができるドンスアン市場に移動し、大学生とともに班に分かれて買い物を通して交流を行った。特にドンスアン市場での買い物は、ことばと価格交渉という二つの壁があったが、現地の大学生と一緒にいることで、果敢に挑戦し、買い物を楽しむ生徒の姿も多く見られた。

6日目（7月26日（木））

午前中は、ハノイ市内の視察研修を行った。

最初に文廟を見学した。文廟は、1070年、孔子を祀るために建立された廟で、孔子廟とも呼ばれる。敷地内には、2011年に世界の記憶遺産に登録された82の石碑が、すべて異なる顔をした亀の象の上に置かれており、科学試験合格者の名前が刻まれていた。

続いてハノイ大教会を見学した。1886年、仏教寺院の跡地に建立され、その後、1900年初頭に改築された。内部に入って左手には、ベトナム人の衣装をまとった聖母マリア像も安置されている。

続いてホアンキエム湖を訪れた。ハノイ市街の中心にある穏やかな姿の湖である。「刀を返す湖」として遷剣伝説で知られている。湖の中心にある亀の塔も、湖畔から確認することができた。

その後、ホーチミン廟を視察した。1975年に完成し、ベトナム建国の父、ホーチミンが眠る廟である。内部にはホーチミン主席の遺体がガラスケースに入れられて安置されているが、今回は30℃を超える猛暑の中、正面からの記念撮影にとどめた。続いて、徒

歩で一柱寺を視察した。一本の柱の上に仏堂を載せたユニークな形からこの名で呼び親しまれている。ハノイのシンボルの一つになっている。

ビュッフェ形式のベトナム料理の昼食の後、バッチャン村に移動し、バッチャン焼の絵付け体験を行った。日本の各地域の工業高校の代表だけあって、絵心のある生徒も多く、短い時間であったにもかかわらず、質の高い作品に仕上がっていた。



バッチャン焼絵付け体験

シーフード料理の夕食の後には、ベトナムの伝統芸能である水上人形劇の鑑賞体験を行った。水上人形劇は1000年も昔から伝わるもので、もともとは農民たちが収穫の祭りのときなどに屋外の水辺を使って演じていた。米づくりの盛んなベトナムは、日本と同様に多くの水田を持つ。ベトナムの歴史と文化、生活を色濃く伝える人形劇を、生徒たちも熱心に鑑賞していた。

7日目（7月27日（金））

8：00にホテルを出発して約4時間、バスで、世界遺産に登録されているハロン湾を

目指した。ハノイを出発してしばらくは道路沿いに商店が切れ目なく続いていたが、紅河を通過したあたりから、日本でもなじみの深い水田の風景が続いた。

12：00過ぎに到着し、貸し切りクルーズに乗り込んだ。途中何度かスコールに見舞われつつも、食事をしながら約3時間、日本の松島や中国の桂林を髣髴とさせる絶景を楽しんだ。その後、鍾乳洞を見学した。生徒たちは、スコールで足元が滑りやすい中、全身汗だくになりながら、約40分間、山道を歩き切った。

19：30、ハノイに戻り、ベトナムフレンチのレストランで着替えと夕食を済ませた後、ノイバイ国際空港に向かった。



ハロン湾クルーズ体験

8日目（7月28日（土））

ノイバイ国際空港を0：40に出発し、台風12号の接近に気を揉みながら、成田空港に向かった。

心配された台風の影響もなく、VN-310便は定刻どおり到着し、山田事務局長、鈴木事務局長、東日観光の猶江課長のほか、多くの保護者の出迎えを受けた。解団式の団長挨拶では、自分の地域や学校等で海外研修の魅力や海外研修で得た体験を周囲に伝え広める「エヴァンジェリスト活動」の重要性を訴えた。

生徒たちは研修の成果を讃えあい、また会うことを約束してそれぞれの帰路についた。

4. おわりに

第18回高校生海外研修は、全国から選抜された21名の生徒が研修のねらいを理解し、一人ひとりが責任と自覚を持って参加した結果、大きな事故もなく実施することができた。

研修中は、5班編成で、班長を中心に点呼を徹底し、規律ある行動ができた。引率の川邊主任教諭・滝本教諭の指導のもと、生徒には視察先で受けた説明のメモを取らせ、その日の健康報告とあわせて班ごとに提出させた。ノートは両教諭が点検し、コメントを加えて返却することで、生徒一人ひとりの状況の把握に努めた。

生徒の健康面や安全への配慮を第一に、研修全体の調整など、臨機応変に対応してくださった東日観光の岩原添乗員には大変お世話になった。彼女の存在なしには、今回の研修の成功はなかったことを、謝意を込めて明記しておきたい。

日本とベトナムは、その歴史を振り返っても、水耕文化や中国との付き合い方など、共通するところが多い。一方、ことば一つとっても、漢字を使いこなしている日本と、フランスによる統治を経てアルファベットを選択したベトナムなど、異なるところも多い。

特にハノイでは、街中を走るオートバイや自動車はまだまだホンダやトヨタなど日系企業が優勢であるものの、ヒュンダイやサムスンなど、韓国企業の勢いが強い印象を受けた。

今回参加した生徒の中には、外資系のグローバル企業で、エンジニアとして働きたいという希望を持つ者もいる。「世界の中の日本」という視点を、一次情報として自らのものにするという点においても、今回の研修は、生徒たちにとって貴重な機会となったのではないと思う。

本事業が、将来世界で活躍するリーダーを育成し、日本と諸外国をつなぐ役割を果たすことを願っている。

第18回高校生海外研修引率を終えて

東京都立六郷工科高等学校
引率教諭 滝本 直美

今回、引率教員として海外研修に参加させていただきました。今回の研修で、大変貴重な経験をさせていただき感謝しております。

初めて研修でベトナムに訪れた率直な感想としては、ベトナムが独立するまでに様々な歴史があり、その影響を受け、いろいろな国の文化が建築物をはじめ混在しており、とてもエキゾチックな印象であった。

例えば、大聖堂や郵便局、オペラハウスなどは、フランスの建築家が設計し建てた建物であり、文廟などは中国の影響を色濃く受けていた。そして、その建造物などを破壊することなく、大切に保存してあるのを見ると、ベトナムの人達は実に柔軟な人達なのではないかと感じた。ホーチミン市やハノイ市は、高層建物が増えており、夜は東京の夜景のようにきれいであり、成長著しい様子が都心部では顕著に表れていた。



大聖堂



文廟

また、交通では、道路を埋め尽くすオートバイの数の多さに圧倒された。ほとんどが、HONDA製のスクーターやオートバイで、自動車は増えつつあるが、オートバイのほうが圧倒的に多い。自動車が一番多く見たメーカーはトヨタ車で、ヒュンダイも多かったが、マツダやホンダ、日産車もベトナムで走っていた。ハイブリット車は一台も見ることができなかった。環境に配慮していくのはこれからなのかと感じた。



ベトナムの交通事情

VJCC や B&S プログラムでは、現地の日本語を勉強されている大学生との交流があった。現地の大学生の日本語はとても上手で、生徒たちと様々な話をし、すぐに打ち解け、非常に楽しそうにコミュニケーションを図っていた。あれだけ日本語が上手な様子を見ると、ベトナムの学生は非常に勤勉であると感じた。



VJCC での交流

ハノイ工業職業訓練短期大学では、旋盤やフライス盤などは、日本よりも年式の古い機械を使用していたが、驚いたのはヒュンダイやサムスンといった企業が投資し、学校内に一部企業名の教室や施設があったことである。

夏休みなどに洗車や簡単な整備などを学生に行わせ、その対価をヒュンダイが支払い、それを生徒が学費に充てていたり、サムスン

が投資した教室では、携帯電話の分解をする授業が行われており、卒業後は即戦力として採用するような授業が行われていた。学校側、企業側のどちらにもメリットがあるが、このように、韓国企業がベトナムに進出してきていることには大変驚いた。



ハノイ工業職業訓練短期大学

韓国企業の進出にも驚いたが、日本の企業も、ベトナムで沢山見ることができた。その中で、今回ヤクルト工場を見学させていただいた。見学の中で、日本製のタンクの美しさが際立っており、改めて日本製品の良さを感じることができた。また、ヤクルトはベトナムだけでなく世界中に工場を持っているが、ベトナムの人達は嘘をつかず、一緒に働く上で、仕事がしやすいと話をされていた。やはり、現地の文化や歴史、国民性や風習など、その国のことをよく知ったうえでコミュニケーションをとることが大事であると工場長の方が話をされており、実際にお話を聞くことができ、貴重な経験をさせていただいた。

そして、一番印象に残ったのは、クチトンネルと戦争証跡博物館である。ベトナム戦争の激戦地であったクチには、全長 250 km もの手掘りの地下トンネルが張り巡らされていた。そして、その中に生活するスペースや、サイゴン川までの逃げ道がつくられていた。爆撃や様々な攻撃から知恵と忍耐力で攻撃をかわし、ベトナムの人達が耐え抜いた跡を実際に見ることができたことは非常に印象に残った。実際にトンネルに入ってみると非常に

狭くて、人ひとりがかがんで通るのが精一杯な狭さで、アメリカ兵が入れないような狭さのトンネルであった。トンネルに通じる小さな蓋を閉じると、どこにトンネルがあるかまったく分からなかった。また、ベトナムの兵士の人たちは、自動車のタイヤを切り取って草履にしており、丈夫ですり減りにくく、そこでもベトナムの人たちの知恵を垣間見ることができた。



クチトンネル

戦争証跡博物館では、直視できないような写真などが沢山展示されていた。ベトナムの南北統一をめぐっておきたベトナム戦争では、ベトナム国内だけで200万人近い人々が犠牲になった。この悲惨な過ちを二度と繰り返してほしくないと願いを込めて戦争証跡博物館が建てられており、今も尚、枯葉剤の影響で苦しんでいる人たちの写真も展示しており、二度とこのような過ちを繰り返してはならないと強く感じた。生徒たちも、真剣なまなざしで見学している様子から、同様に感じていたように思う。



戦争証跡博物館

このように、苦しい中でも、自分の国を愛し団結し、知恵を絞り耐え抜いてきたベトナムの人達だからこそ、近年の目まぐるしい発展につながっているのではないかと感じる。

その国の文化や風習、歴史を知ることが、今後、外国で働く上で、また日本で外国の人たちと働く上で、非常に役に立つのではないかと考える。

子供たちは、すぐに現地の学生と仲良くなり打ち解けていた。彼らの積極的な姿勢は、非常に頼もしく思える。世の中には、様々な文化があり、様々な考え方がある。日本だけでなく、海外を少しでも知ることによって、視野が広がるのは間違いないと思う。また、若いうちのこのような体験は、確実に彼らの視野を広げ良い影響を与えたいと思う。

今回、工業校長協会の方々をはじめ沢山の方々の支えがあり、生徒たちが無事、研修を終えることができた。今回の研修での経験を、今後生徒たちに、還元していきたい。ありがとうございました。

海外研修を引率して

東京都立足立工業高等学校

引率教諭 川邊 美栄

はじめに

この度、高校生海外研修の引率を拝命した。海外での生活経験はあるものの、海外への引率は初めてである。大変貴重な経験をさせていただき、関係の全ての皆様に対し、感謝の念に堪えない。

以下、1週間の出来事の一部をまとめていく。

1. 7月21日（土）

1. 1 結団式

結団式会場である成田エアポートレストハウスに到着し、部屋に行くとフロアの1室がうるさい。どうやら参加者がすでに仲良くな

り、良くいえば「交流を深めている」模様。面識もない中早速、第1回目の注意である。

一部保護者の方も結団式に参加してください。「うちの子は本当に忘れっぽくて、ケータイとかすぐに置きっぱなしにしちゃうんですよ」とのこと。でもご心配なく。彼も日本の工業高校生の代表ですから、きっと大丈夫。

結団式では全国工業高等学校長協会の山田事務局長司会のもと、佐々木理事長（六郷工科高等学校長）、居石国際化事業推進委員会委員（藤沢工科高等学校長）をはじめ、多くの方々から激励のお言葉を頂く。引率者として前に座っていたが、身の引き締まる思いであった。

結団式の後、夕食までの間、買い物に行く参加者も。ホテルから空港の第2ターミナルまで歩いて10分程度。みんなで歩けば、気にならない距離だろう。

夕食はカツカレー。しばらくカレーは食べられないと思うととても美味しく感じた。



すでに仲良くなっている参加者は、お互い自分の学校の特徴を話していた。

2. 7月22日（日）

2. 1 朝食→空港へ

6時半のレストラン開店とともに朝食、7時出発という慌しいスケジュールで食事をいただき、ホテルの方へのお礼もそこそこにバスで空港へ向かう。

チェックインを済ませると、添乗員の岩原さんより、セキュリティを通る際に、容量の多い液体は廃棄させられるとの説明を受け、ペットボトルの飲料を慌てて飲み干す者あり。

液体の名称が「コカ・コーラ」であったせいか、敢え無く挫折。自主的に廃棄となった。



2. 2 ベトナムへ

初めての飛行機という参加者も少なくない中、飛行機はホーチミンに向けて飛び立った。機内で食事を取り、思い思いの時間を過ごす。空から見える景色の写真を撮っている参加者もいた。

ホーチミン・タンソンニャット国際空港へ降り立ち、入国審査を受ける。いくつかの列に分かれて並んだが、審査官により通過する時間に差が出てしまう。先に通過した参加者がバゲッジクレームで全員の荷物をターンテーブルから下ろしておいてくれたおかげで、スムーズに空港から出ることができた。

2. 3 ベトナム市内視察

統一会堂、戦争証跡博物館、中央郵便局を経てベントイン市場へ。

この市場は、ホーチミンのガイドブックに観光名所として必ず載っている場所である。「市民の台所」とのことだが、実際は観光客向けの土産も多数あり、値段交渉を楽しみながら買うことができる。

巡回すると、ココナッツの身に入ったジュースを飲んでいる一団を発見。南国の雰囲気を楽しんでいるようだ。

市場の中から見える外は大雨であった。



2. 4 Indochina Junction ディナークルーズ

ベトナム第1夜の食事はサイゴン川のディナークルーズである。

豪華な雰囲気の中で、ベトナム料理を味わう。食後はデッキへ出て東南アジア特有の生温い風に当たる。階段を使って全員の集合写真を撮ってほしい、と依頼され、カメラを預かる。すでにそんな写真が撮れるような関係を作っていることに少し驚きつつ、シャッターを押す。私のカメラでも撮ってみたが、写真は真っ黒だった。



2. 5 ホテルへ

夕食を終え、ホテルに戻ったのは22時近く。高校生の研修としてはちょっと遅い、という印象。

チェックイン後、水や食料を購入したいという者が多かったため、それ以降は絶対外出しない、という約束でホテル向かいのコンビニ「サークルK」へ。向かいと言っても交通量の多い道路を渡る必要があるため、まとまって行くことに。

22時にロビー集合と言ったのに、遅れて直接コンビニに来る者数名。「まあまあ、いいじゃないですか」というが、余りにも多い交通量にヒヤヒヤするこちらの気持ちも少しはわかってほしい。



3. 7月23日(月)

3. 1 朝食

朝食はバイキング形式。すでに仲良くなっている参加者は円卓を囲んで朝食を取っている。



ヌードルバーがあり、日替わりの麺がサーブされる。今日の麺は卵麺。日本のラーメンに近いテイストであっさりいただくことができた。

3. 2 ヤクルト・ホーチミン工場視察

ベトナム名物、朝のバイクラッシュを眺めながら、バスで本日の視察先、ビンズオン省の「ヤクルト」へ。

道路いっぱいに埋め尽くされた50ccと思われるバイクには、1台に複数人が乗車しており、日本では考えられない交通法規の許容にドキドキしながら、北へ向かう。



ヤクルト・ホーチミン工場は日系企業として10年にわたりこの地に根付いている。

ベトナムにもヤクルトレディがいて訪問販売を行っていることや、成分の違いによりヤクルトの味が日本とベトナムとでは異なるという説明を聞き、興味深かった。また、参加者から「日系企業として文化の違うベトナムで経営していくために気を付けていることはありますか？」という質問があった。目の付け所がよいな、と思った。



3. 3 ベトナム料理の昼食

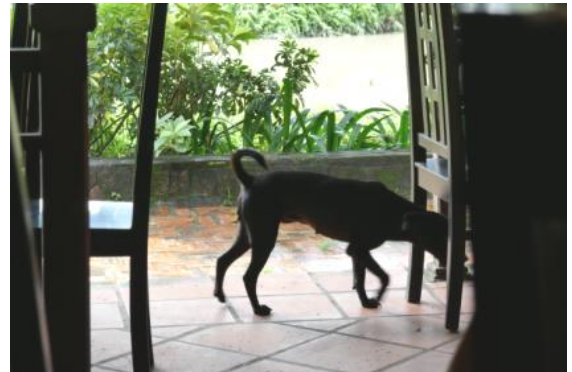
昼食は午後の見学先「クチトンネル」に程近いクチ市内でベトナム料理をいただく。

ここでアクシデント。トンネル見学に備え、制服から私服へ着替えをする場所を昼食会場で提供してもらえるはずが、場所の準備はないとのこと。やむを得ず男女交代でバスの中で着替えることに。

旅行会社より、協会へは連絡があったようだが、我々本隊は知らなかったため、現地での対応となった。念のため、と岩原さんがバスの前に立ち、見張りをしてくださる。その間我々女子は車内で着替えを済ませるが、や

はり落ち着かないものであった。

食事中にスコールに襲われ、外から黒い犬が2匹避難してくる。親子だろうか。



3. 4 クチトンネル

クチトンネルはベトナムでもっとも有名な戦跡の1つであるが、安全に見学できるよう整備されている。

屋根のある建屋のようなところで、このトンネルが生きた戦争のフィルムを15分ほど見てから、実際のトンネルに向かう。

雨上がりの湿気に包まれながら、森の中を歩く。ここクチトンネルは、ベトナム戦争当時、作戦本部が置かれていた場所として知られており、要所には案内人も配置されていた。



トンネルの中で生活ができていたという話や、トラップの説明を聞き、つくづくベトナムの歴史が戦争と共にある、ということを確認する。アメリカにも、中国にも戦争で勝った国、ベトナム。しかし、これからの歴史が平和と共にあるように、と願わずにはいられなかった。

ツアー最後にテントの下で、ベトナム戦争で兵士が食べていたというタロイモとお茶を

頂く。砂糖をつけて食べるだけあって、そのもの自体ではほとんど味を感じることはなかった。

そしてまたスコールに襲われる。傘を差してもさしてもお構い無しに降ってくる雨にずぶ濡れになりながらバスへ戻る。

ホーチミンまで1時間弱。濡れたシャツも、車内のエアコンであっという間に乾いてしまった。



3. 5 五つ星ホテルREXでディナーショー

ホテルに戻り、シャワーと着替えを済ませ夕食へ。今日の夕食はディナーショー付ベトナム料理。それも、ホーチミン市内の五つ星ホテルのレストランで、である。



広いレストランで、伝統音楽や民族舞踊を鑑賞しながらの食事は、豪華な雰囲気です。少し恥ずかしい気もしたが、美味しい料理に舌鼓を打ち、最後の写真撮影まで楽しい時間となった。

明日は学生交流の後、ハノイへ向かう。ホーチミンとはお別れである。

4. 7月24日(火)

4. 1 ロビーにて

朝食の後、荷物を持ってチェックアウト。岩原さんから「部屋のランドリーバッグ、どうしました？」と聞かれる。ええ使ってます。今汚れ物を入れて、スーツケースの中です。と言うと、どうやらそれは有料とのこと。えー、日本ではランドリーバッグにお金がかかるなんて聞いたことない、と思ったがここはベトナム。フロントで2万ドンを支払う。

「ショックですー」と言う、岩原さんが「私の方がショックです！昨日あれだけ言ったのに！」とのこと。すみません、聞いていなかったようです。でもあの袋、とても丈夫でプライベートでも大活躍しています。

4. 2 VJCC へ

バスでベトナム・日本人材協力センター(VJCC)へ。ここでホーチミン市テクノロジー大学(HUTECH)の学生と交流会を催していただく。

まずは数名ずつ分かれての自己紹介。最初は恥ずかしそうだった参加者も次第に打ち解けていく。学生の日本語は差こそあれ流暢というに余りあるレベルで、学校の話や好きなアイドルの話などで盛り上がったようである。

次にVJCCの日本人インターン七瀬氏(関西学院大学)手作りの「日本語かるた」が登場。ひらがな47音全てが網羅され、ベトナムと日本の特徴を学べるよい機会となった。



外に出て日本から持参した竹とんぼとベトナムの遊び「ダーカウ」を楽しむ。外に出て飛ばす竹とんぼはどこまでも飛んで行きそう

で、本当に気持ちがいい。



4. 3 チュクさんとお別れ。

歴史博物館を見学した後、ホーチミン滞在中、ガイドとして帯同して下さったチュクさんとお別れ。私達がベトナムに来て初めてお会いしたベトナムの方である。

教育大学を出て教員になろうと思っていたが日本語と出会い、ガイドの道を選んだそう。チュクさんのおかげで、我々のホーチミン滞在が忘れられないものとなった。

記念撮影をして、空港の中へ。



4. 4 ノーチキン

チェックインは長蛇の列でカウンターまでの距離が非常に長く感じた。ハノイ行きの便はほぼ満席。みんな制服でよく頑張っている。

途中機内食が出たが、「チキン or フィッシュ？」と聞かれたので「チキン」と言ったら「ない」と言われた。仕方なくフィッシュをもらうが「チキン」に未練を残して不満を言っていると、「量が少ない」と文句を言っているとでも思ったのだろうか、すぐ後ろの座席の親子連れが機内食のトレイを差し出し、ベ

トナム語で「うちの子小さいから、機内食食べないから、どうぞ」という意味だと思うが声をかけてくれた。大変、恥ずかしい。しかし、そのトレイに乗っていたものもフィッシュであった。

斜め前ではFくんが「チキン」を食べている。どうやらその列で品切れとなったようだ。後で羨望の眼差しで言う「なあんだ、言ってくればよかったのに」とのこと。



4. 5 ハノイ料理のディナー

夕食を取るため、市内のレストランに向かう。この料理はベトナム料理と言ってもハノイ地方の料理である。

ベトナム料理は麺料理から始まって米料理で締めるのだという。その麺料理もホーチミンではフォーだったが、ここハノイではブンというつけ麺が出された。



透き通ってはいるがちょっと濃い目のつけ汁に茹でた麺をつけて食べる。南北に1800キロも離れていると、麺も変わってくるのだろうか。ここに限らず、今回の研修でお世話になったレストランは限られた時間の中でテンポよく食事をサーブしてくれる。こうい

ったところでも、たくさんの人に支えられていると思う。

5. 7月25日(水)

5. 1 HIVC

ハノイ工業職業訓練短期大学を視察。制服で行動するのも今日が最後である。

校内見学の際、体調を崩した生徒2名とともに、部屋で待機することに。その際付き添ってくださった大学職員の方に聞いたベトナムの住居事情は、素材、構造ともに日本と大きく異なっており、驚かされる。

会話は英語であったが、このように自分たちがベトナムで知りたいことを日本語でも、英語でも質問できる機会があれば尚よいのではと思った。もちろん VJCC も交流という点では非常に充実したものであったが、会ったばかりで質問の応酬というのは、少し難しかったかもしれない。また、ここは技術を学ぶ学校である。技術系の質問もしやすい

大学職員の方は、話している途中、果物を振る舞ってくれる。今の時期しか食べられないものだそう。そんなフレンドリーなところも、ベトナムの魅力なのかもしれない。

K くんが「先生、何かパフォーマンスやるなら準備してあります」という。

それでは、と帰りにお礼としてパフォーマンスをさせてもらうことに。何かと思えば得意の空手で板を割るとのこと。しかもその板はホームセンターで買ったのか日本から持参、という気合いの入れ様。

仲のいいメンバーが板を持つ役を買って出て、見事成功。

先方の学生さんもやりたい、とのことで、K くんが板を持つ。しかし、割りたいだけの学生さんは助走をつけて K くん板に踏み込んでくる。危ない！と思っても絶対引かない K くん感動。

無事に板が割れ、学生さん大満足。ガイドさんによれば、彼は家が材木屋？なので、木の筋に当てれば割れることが分かっていた、とのこと。



5. 2 B&S プログラム

ハノイ市内のレストランにて昼食。そこでハノイ大学で日本語を学んでいる学生と合流した。B&S プログラムとして生のベトナムを体感するためである。



ハノイ大学は前身が外国語大学であったため、日本語だけでなく多くの外国語を学ぶ学生が在籍している。今回の Sister は日本語学科から女性が5名。4・5名ごとの班に1人、この学生がアテンダントとしてついてくれる。

行先はショッピングモール「ビンコムセンター」。ハノイでは比較的高級な部類のショッピングセンターらしく、高級ブランドの店も見える。

しかし、我々が向かったのは庶民派スーパー「Vinmart」。ベトナムではチェーンスーパーとして知られている。ここで食品系の土産や夜に食べるであろうおやつなどを購入。

どこの国に行っても、スーパーは住民の暮らしが垣間見えて興味深い。また、レジ等でのやり取りも海外へ来た実感させてくれる。食品を買うだけなら市場でもいいが、やはり

スーパーというのは日常生活を経験する上で非常に大きな存在である。今回はハノイで1回だけであったが、もう少しベトナムの日常を体験するという観点から、スーパーに行く回数があってもよかったと感じた。



6. 7月26日(木)

6. 1 ハノイ市内視察

分廟から、聖ヨセフ大教会、ホアンキエム湖、ホーチミン廟、一柱寺を視察。この辺りになると、買い物をするときも臆することなく英語で店員さんとやりとりができるようになった参加者が多かった。

ホアンキエム湖のほとりで初めて自動販売機を発見。珍しさに購入する参加者が多かった。



6. 2 バッチャン焼き

ハノイから南へ10キロほどのバッチャン村の工房「Bat Trang Conservation」へ。バッチャン焼きの絵付け体験を行う。バッチャン焼きとは、ベトナムを代表する伝統工芸で、紅河の運ぶ良質な土で作られた陶器である。

中では女性がひっきりなしに焼き物に絵付

けをしている。幸運をもたらしてくれるというトンボと金魚、母親を救った伝説がある菊などをモチーフにした絵柄が次々と描かれていく。



我々も銘々が陶器を選び絵付けに挑戦する。

中でもKさんは初めてにも関わらず、バッチャンのパターンを美しく描く。前々前世あたりがバッチャンの人だったのかもしれない。いや、ここで就職するといいいのでは、とも思わせてくれた。



この工房ではバッチャン焼きの販売もあり、体験したフロアから下りる途中、購入している参加者もいた。

しかし、工房を出て道を渡った向かいの店では、同じ製品が工房のショップの半額以下で売られていたことはナイショである。



6. 3 水上人形劇

予定では最終日、ベトナムを発つ前に観る予定だった水上人形劇を、岩原さんの機転でこの日に移し、翌日のスケジュールに余裕を持たせてくれた。この判断は本当に有難いものであった。

水上人形劇は公演中の写真撮影が禁止されており、撮影をしたい場合は2万ドンを支払う必要があるとこと。

水の中を縦横無尽に駆け巡る人形たち。「きっと濡れない場所がステージの裏にあって、そこで人が棒とか紐で操っているんだよ」と話していたが、最後のカーテンコールで出てきた人形を操っていた人は、下半身までじゃぶじゃぶと水につかって、笑顔で手を振ってくれた。全然違う。

7. 7月27日（金）、28日（土）

7. 1 ハロン湾へ

いよいよ最終日となった。ホテルをチェックアウトし、世界遺産のハロン湾へ向かう。片道3時間に及ぶ移動である。参加者は往復共にぐっすり眠っていた。そろそろ溜まった疲れが表れているのだろう。



往復ともに途中の土産屋でトイレ休憩を取る。

土産店は非常に整備されており、店員も観光客慣れしているのか、ドン、円、米ドルを手際よく換算し、値段を出す。当然、市価より高いはずだが、お土産として魅力的なものが販売されており、また復路ではお土産を買える最後の場所であったため、利用している参加者も多かった。



ハロン湾に近づくにつれ、天気が悪くなってきた。バスを降りて船に向かうまでは然程悪いと思わなかったが、クルーズ船に乗り込むとほぼ同時に大雨である。

食事をしながらハロン湾の中央へ向かうと少しずつ雨も弱まり、ビュースポットでは何とか船の上に出ることができた。ここで写真を撮影したり、近くを通る船に手を振ったり。特に女性が乗っている船へのアピールがあまりにも大きいので、聞くと「後悔したくないので!」とのことであった。臆することなくコミュニケーションにチャレンジする姿に勇気づけられる。



7. 2 ベトナム風フレンチで最後のディナー

ハノイ市内に戻り、フレンチの夕食へ。この研修で初めて肉がメインの食事をいただいた。

ベトナムは100年近いフランスからの植民地支配の影響が色濃く残っており、フランス料理も名物なのだという。

M くんの手紙で「シンモイ! (いただきま

す)」と挨拶し、いただく。まとめ役をお願いすると、いやな顔一つせず応じてくれる彼には、気づけば号令係を常にお願ひしてしまっていた。いつもありがとう。



7. 3 帰国へ。

詰め終えた荷物と共に、ハノイ・ノイバイ国際空港へ。チェックインの列で、同じ便で日本へ向かうであろう人達の話す日本語が、少しずつ研修の終わりを伝えているような気がした。



深夜便なので、機内ではみんな眠るのかと思いきや、PCを取り出して早速研修のまとめを書いている参加者もいて驚かされる。

日本に近くなり、朝食が出た、が目を閉じて口だけでもぐもぐと動かしている者を発見。後で聞くと眠くてパンしか食べられなかったとのこと。

7. 4 成田空港にて。

きっと泣いてしまう、と宣言した通り、最後の挨拶では涙が出てしまった。この参加者との時間がここで終わりだということと、ここまでの緊張の糸が緩んだせいもあったのだ

と思う。

当日は台風の接近により、西日本方面への交通機関が乱れ、フライトキャンセルにより東京で延泊した参加者もあった。翌日何とか帰宅できたようだが、この時期の天候不順はダメージが大きいことを実感した。

こうして、ベトナム研修は幕を閉じた。

8. 渡越雑感

8. 1 持ち物について

【衣類】

ベトナムの気候は高温多湿。とにかく暑く、外でじっとしているだけでも汗が滲んでくる。夕食前ホテルに戻り、シャワーを浴びられることがここまで有難いとは。

制服に加え私服等を持参するが、汗をかくので多めの着替えが必要だと感じた。

ホテルで洗濯できたのはハノイのヒルトンガーデンインのみ、しかも洗濯機、乾燥機共に1台しかないため、数人でまとめて洗濯する等の工夫が必要であった。行き先が東南アジアで、且つこのような旅程の場合、ランドリー設備を擁したホテルであると尚良いのではないかと思う。

【お金】

ベトナムの通貨はドン。10000ドンで50円くらいであり、ゼロの多さに戸惑う。基本的にこのドンが必要で、米ドルが使えるという話もあったが、実際米ドルを使ったのはハロン湾に行く途中に寄った海外旅行者向けの土産店のみだったと思う。

国内で両替・用意する必要はなく、ホーチミン到着後バスの中で日本円から両替（3千円→60万ドン程度）してもらえるサービスは非常に有難かった。

【通信関係】

渡越にあたり、SIMフリーのiPhone 7 plusと数種類の通信手段を確保した。

まず Vietnamobile と Happy 2 Go の SIM を Amazon で購入。後者のレビューは高評価

で、通常の Web 閲覧は問題なくできたが、ブログを開設している WordPress がなぜかブロックされてしまったので、使用を中止し、Vietnamobile に差し替えた。

また、全工協のご厚意により、レンタルの大容量 WiFi ルータをご提供いただき、非常に快適な通信環境の中で、引率することができた。

ホテルに戻れば無料WiFiの設備はあるが、やはりその場での連絡や情報収集には何らかの通信手段を備えておきたいと思う。

参加者の中にも、自分で WiFi ルータをレンタルしている者もあり、参加者を取り巻く通信環境も変わっているように感じた。

SIM ロック解除済の端末も増えており、来年度以降の研修ではさらに WiFi レンタルや SIM カードの利用者が増えるのではないだろうか。

8. 2 情報発信・共有

【写真のシェア】

各自で写真を撮っているので、アップロード、ダウンロード共に可能な共有サイト「30days Album」を利用していたが、枚数制限があったため、最終的に LINE のグループで共有する形となった。

現時点では LINE のアルバムにアップロードできる写真は、1つのアルバムにつき1000枚と制限はあるが、アルバムの数に制限はないので、実質無制限であるといえる。

すでに初日にはグループが形成されていたようで、グループ内で2000枚に上る写真が共有された。写真共有のためだけにグループを作っておいても、それは非常に有用であると感じた。

また、写真共有ではないが、伝達事項は参加者の一人に言えば、LINE のグループで伝わるので、この利便性に甘えてしまった面もあった。

【ノート】

回収→確認→返却までを一晩でこなすため、

回収した日の夜は滝本先生と2人で約10人ずつ、コメントを入れることになる。

ノートを見るのが苦になるということは全くなく、むしろ参加者の思いがダイレクトにわかる機会として楽しみであった。しかしながら、当然一生懸命書いたノートには一生懸命コメントを入れたくなるのが心情で、気づけば就寝が深夜3時・4時となっていた。山田事務局長からは「負担にならない程度に…」と仰っていただいたが、そのあたりの加減は難しい。

今後は、ノートのレイアウト等を検討し、参加者、引率者ともによりまとめやすく、コミュニケーションツールとなり得るものができるとういとおもう。

【ブログ】

今回、研修中の様子を参加者の所属校関係者や家族に伝えるために、ブログを7月20日から8月20日まで開設した。SEO 対策を考え、選んだブログサービスは WordPress である。

WordPress はベトナムの回線状況により、サーバに接続できないこともあり、リアルタイムでの細かい更新ができなかったのが心残りである。

また、本来の目的である連絡、報告用であれば SEO 対策を考慮したブログサービスを選ぶ必要はなく、別のサービスという選択肢もあったが、アクセス解析を見ると、ブログの存在を知らせていないにもかかわらず、世界中から1日で500件近いアクセスがあったことは非常に興味深い事実であった。

9. 感想

担任したクラスの生徒が卒業する際、大手総合商社系列の就職先から送られてきた調査票には「海外での勤務は可能か」という質問があった。その下で選択する「勤務できる国」の中に「ベトナム社会主義共和国」とあったことは今でも覚えている。

このように、就職する生徒がアジアをはじめ

めとする海外へ行く可能性は、昔より大きくなったことを実感する機会が増えたように思う。

その中の1つでもある、日本との結びつきが強くなっているベトナムは、近年まで強いられていた他国との関係により生み出された、独特の文化を持っていた。全員が初めての渡越となった今回の研修では、その文化を少しでも、体感することができたのではないかなと思う。また、私自身もこの経験により、今後我が国とベトナムとの関係について、関心を持って正しい情報を得ようと心掛けるであろう。

そして、国連の調査によると国民の平均年齢が26歳という、驚くほど若いこの国のエネルギーは、未知の可能性を秘めているとともに、今後我が国にとって畏怖の対象となり得るのではないかなと思う。

今回の参加者については、コミュニケーション力が非常に高く、話を聞けば聞くほどグローバルな人材になり得る素質を感じた。ぜひ機会があれば、自分ひとりで思い切って海を渡ってほしい。そこには今回のベトナム研修とは違った世界が待っていて、君達を成長させてくれるはずである。

そして将来、「全てのきっかけがこのベトナム研修だった」と言えるような研修であったことを願って止まない。

謝辞

今回の引率にあたり、このような貴重な機会を下さった全国工業高等学校長協会 国際化事業推進委員会の皆様、また快く送り出して下さった所属校 東京都立足立工業高等学校 小堀隆校長をはじめ教職員の皆様、そして団長として私たちを温かく見守って下さった埼玉県立三郷工業技術高等学校 山本康義校長、「同士」六郷工科高等学校 滝本直美教諭に心より御礼申し上げます。

7. 参加者の報告

海外研修に参加して

北海道旭川工業高等学校

電気科 3年

1. 7月21日

海外研修を前に、結団式が成田国際空港レストハウスで開催された。私は研修に参加する21名の生徒達のうち、十数名とコミュニケーションを取り、翌日からの研修に備えた。

2. 7月22日

成田空港を出発し、ホーチミンへと向かった。この日訪問したのは統一会堂、戦争証跡博物館、サイゴン中央郵便局、ベントイン市場だった。

統一会堂では、当時のベトナム大統領の暮らしや南北に分かれていたベトナムの歴史について学べた。

戦争証跡博物館では、ベトナム戦争で使われた兵器や捕虜の記録などが見学出来た。

サイゴン中央郵便局は芸術的な建物で、ベトナム特有の切手や絵葉書、アクセサリー売り場があった。

郵便局の前ではアイスや切手などを売る人達が居て、しっかりと断らなければかなりしつこく勧められた。広場には聖母マリアの像があり、写真を撮る観光客が多かった。

3. 7月23日

この日の日程は、ヤクルト・ベトナム工場視察、クチトンネル視察だった。

ヤクルトでは、日本の工場との違いや特有の機械について学べた。豆知識として、ベトナムのヤクルトは現在の日本のヤクルトよりも甘く、昔の日本のヤクルトに近いということが分かった。

クチトンネルでは、ベトナム戦争時のベトナムゲリラ達とアメリカ兵達の戦いの記録が見られた。ゲリラ兵達は頭を使い、アメリカ兵達を翻弄していた様子が伺えた。



クチトンネルで見た爆弾

4. 7月24日

この日は、ベトナム日本人材協力センター、ベトナム歴史博物館を見学した。

ベトナム日本人材協力センターでは、現地の日本語を勉強している学生達と遊びや歌などを通して交流した。日本のかるたや竹とんぼ、ベトナムのダーカウなどをした。歌は現地の学生の中から3人がそれぞれ1曲ずつ披露してくれた。私達は全員で世界に一つだけの花を歌った。

歴史博物館では、ベトナムの宗教事情や多くの戦いの記録に触れることが出来た。ベトナムで信仰されている宗教の90%が大乗仏教であり、残りは主にキリスト教であることや、ベトナム人の戦いは頭を使った戦略的なものであったことが分かった。

5. 7月25日

この日は、ハノイ工業職業訓練短期大学訪問、B&Sプログラム参加学生との顔合わせ昼食会、B&Sプログラムという日程だった。

大学では、ベトナムの工業学校ではどのような設備を使い授業をしているのかなどが分かった。韓国のサムスンなどの企業からの支援があり、最先端の機械もあったが、まだまだとても古い機械を使っている部分もあるということだった。

学生達は非常にやる気に満ちていたので、世界の企業がベトナムでの事業を考えることに納得した。

B&Sでは、現地の学生に日本のことを教え、

ベトナムのことを教えてもらい異文化交流が出来た。

6. 7月26日

この日の日程は、市内観光、バッチャン焼き絵付け体験、水上人形劇だった。

市内観光では、ホーチミン廟、一柱寺、文廟、ホアンキエム湖、ハノイ大教会を観光した。ホーチミン廟では色々な石碑や仏像、歴史的建造物を見学した。ベトナムの人達は宗教に関心が高いと思った。

ホアンキエム湖では、そこにしか生息していない亀がいるとのことだった。水の色は綺麗とは言えないものだったが、その亀には生息しやすい環境なのかと思った。

バッチャン焼き絵付けでは、ベトナムの伝統的な焼き物に絵を描かせてもらった。

水上人形劇は、言葉や内容が分からなかったが独特で楽しめるものだったと思う。

7. 7月27日

この日はハロン湾クルーズ後、日本に帰国するという日程だった。

ハロン湾クルーズでは、船でハロン湾を進み鍾乳洞へと向かった。鍾乳洞は涼しいと思われたがとても暑かった。しかし景色は綺麗だった。



鍾乳洞

8. 7月28日

日本へ帰国。事務連絡の後各々の帰路へとついた。

9. 感想

今回の研修を通して、世界と日本との違いというものが少しは分かったと思います。ベトナムで食べたほとんどの物が私の口に合わなかったことなどから、食文化の違いなども実際に分かりました。文化の違いがよく分かったのは、これから社会人として生きていく上でとても良い経験になったと思います。日本という国がどれだけ恵まれているのか、平和で衛生的に暮らせることに感謝の気持ちを持てたことも、これからの価値観に影響すると思います。

私は以前からベトナム戦争について自分で触れて知りたいと思っていました。今回クチトンネル、戦争証跡博物館やベトナム歴史博物館の見学を通して自分自身の目で見ることによって、戦争の悲惨さや、枯れ葉剤が撒かれたりしたベトナム戦争の特殊性などがよく分かったと思います。とても貴重な経験になりました。

そして何よりも、海外に重点を置いた本研修でしたが、私が得た最も大きいと思っているものは、日本全国に出来た友人達です。研修中に力を合わせ、問題も力を合わせて乗り越えていったので、たった1週間という短い時間でしたが、とても仲が深まりました。日本全国に頼もしい友人が一度に21名も出来たことは、とても心強く思えます。最初、参加者は全員同じ歳だと思っていましたが、実はほとんどの生徒が2年生で歳が違い、少し驚きましたが、すぐに気にならなくなりました。学年が違っても、同じ立場で、同じ目線で全員と接しました。年下であっても頼りにしていますし、困っている仲間は全員助けようと思っています。

経験や新しい仲間、たくさんのものを得た本研修に参加出来て良かったと思います。そして、自分を選んでいただけたことや、協力してくださった先生方、とても楽しく充実した研修を送らせてくれた他の研修生、主催してくださった協会の方々、そして旅行会社の方々やベトナムでお世話になったの方々等、本

研修に関わった全ての方々に感謝します。
本当にありがとうございました。



成田空港レストハウスにて

海外研修 in ベトナム！

山形県立寒河江工業高等学校
電子機械科 2年

1. 学校見学

ホーチミン市工業大学は、生徒数が数千人という規模で、しかも男子がその7割を占める大きな大学でした。ベトナムは治安の悪いイメージがあったのですが、ベトナムのほとんどの学生が大学へ進学すると聞いて驚きました。学校の施設には、事故のシミュレーションが体験できる場所があったり、自分の通っている高校と似ていてパソコンの部屋があったり、溶接をする機械がある部屋がありました。

ハノイ工業職業訓練短期大学では、ハノイの学生と一緒にベトナム料理を食べて、日本のお土産を渡して、それぞれの国について質問し合ったりして、とても楽しかったです。



会話は、英語と日本語で行い、伝わらない時はジェスチャーや携帯のアプリを使いまし

た。自分の伝えたいことが伝わった時は、とても嬉しかったです。ベトナムの学生と話をしてみて、英語力が無いことに改めて気づかされたので、帰国したら英語の勉強をもっと頑張ろうと思いました。

2. 企業見学

日系企業である「ヤクルト」の工場を見学しました。世界中 38 カ国に工場があり、ベトナム工場では日本人が工場長を務めていることを知りました。海外では、日本人は高い技術力だけでなく、日本人にしかできないことを求められていることが話を聞いてわかりました。これからの日本人には、出した指示の部分を点検し、他の箇所に不備があったら修正するなどの気遣い、心遣いが必要になると聞いたので、今のうちから身につけ、将来仕事に就く時に役立てたいと思いました。



3. 現地見学

ホーチミンとハノイの市内を観光しました。

ホーチミンでは郵便局や市場に行って買い物をして、初めてベトナムの紙幣を使いました。ベトナムの物価は、日本の約三分の一だったので安く買い物ができたのですが、紙幣はほぼ万単位だったので計算が面倒でした。計算をして初めて買ったのがコーラでした。一本 600ml で 50 円、二本 70 円でとても驚きました。市場の店員さんが意外にも英語より日本語の方が通じて、日本語を話せる人が多くてびっくりしました。

ハノイでは文廟、ハノイ大教会やハロン湾クルージングにいきました。ハロン湾は世界

自然文化遺産に認定されていて、クルージングの日の出発時は雨が降っていて景色が見られないのではないかと心配だったのですが、途中から晴れて船のデッキの上から壮大な景色を見ることができて、映画の中に迷い込んだような感覚になり、とても素晴らしい観光ができました。

4. 感想

研修を終えて、ベトナムについての考えだけでなく、世界に目をやることの大切さや海外の人とのコミュニケーションの取り方など、数えきれないほど多くのことを学びました。ベトナムで過ごしたのは一週間でしたが、私の人生の中で最も濃い時間を仲間と共に過ごすことができ、一生忘れることのない思い出となりました。今回の研修で出会った 21 人の仲間がそろったことは奇跡と言えるでしょう。すべての始まりはお菓子からでした。それがなければ今も仲良くなれなかったかも知れません。この繋がりは今後も大切にしていきたいと思います。そして、この素晴らしい体験に関わってくださった全ての人たちのおかげで素敵な旅ができたことに感謝します。本当にありがとうございました。



ベトナム海外研修に参加して

山形県立米沢工業高等学校
機械生産類 3年

1. ベトナム日本人材協力センター

最初に訪問したのはベトナム日本人材協力センター（VJCC）という、ベトナムの高校

生が日本語を学ぶ学校でした。現地の高校生は 20 歳前後で、日本語がとても上手でした。

自己紹介をした後、かるたゲームをし、親睦を深めることができました。その後、外へ出て、日本から持参した竹とんぼや現地の羽を蹴るゲームで遊び、仲良くなりました。

最後に、南部民謡の「リーカイボン」と一緒に歌い、お返しに、「世界に一つだけの花」を歌い、国境を越え、仲良く交流することができました。



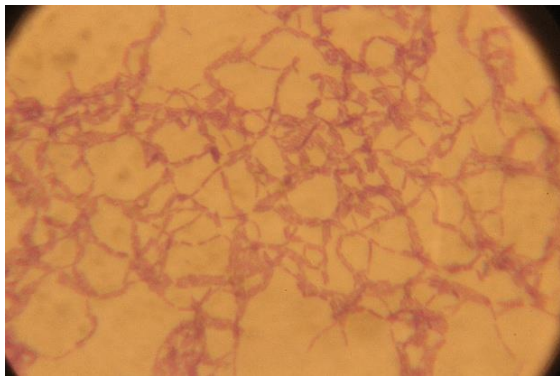
ベトナム日本人材協力センター（VJCC）で
撮影した集合写真

2. ヤクルト・ベトナム工場

2007 年に工場が作られ、今年で 11 年目。工場長は岩男健仁（いわおけんじ）さん。総勢 583 名で、うち日本人従業員は 7 名。工場全体の 3 分の 1 が女性労働者で、平均年齢は 28 歳と若く、活気のある工場だと感じました。日本と同様に YL（ヤクルトレディ）も 461 名いるそうです。自家発電を完備しており、停電時でも生産が止まることはありません。工業団地浄水場があり、工場に入った水は飲めるらしく安心安全を心がけています。また、ISO22000 や ISO14000 など取得しています。工場ではベトナムのヤクルトを頂いたのですが、飲んでみて、日本のヤクルトより若干甘いことに驚きました。それはなぜかというと、日本のヤクルトはカロリーを抑えるため、砂糖を使ってないものが多いが、ベトナムのヤクルトは、砂糖を使って作っていました。以前は日本でも砂糖を使用してヤクルト

を作っていたので、日本のおじさんおばさんたちは懐かしい味とを感じるようです。

ヤクルトの素となるヤクルト菌は、シードというヤクルト菌の種が日本から運ばれ、種ルームというヤクルト菌を増やす場所があり、それを移す際、ふたの部分の燃やしながら入れることにより、他の菌が入らず、ヤクルト菌だけが入るようになっている。ミルクで増やすことができ、増やしたら、原料液を作り、砂糖と混ぜてヤクルトが完成する。日本のヤクルトの賞味期限は、15日と短いですが、ベトナムは、40日間と少し長めになっており、飲みたいときに飲めるようにベトナムにあった期間にしています。



ベトナム工場のヤクルト菌

3. 戦争証跡博物館

ここでは、ベトナム戦争で被害にあった人々の写真や、使用された武器などが展示されていました。特に心に残った写真は、兵士がバラバラになった子供の死体を持ち上げている写真でした。これを見た時には、ただただ言葉にできず、とても心を痛めました。



バラバラになった子供の死体を持ち上げる兵士

また、アメリカが落とした毒爆弾の影響で、体の形がおかしくなった人々を見た時には、高校の修学旅行で行った広島原爆被害と似たようなものを感じました。広島で、「二度と同じことを繰り返してはならない」と思ったことを、またベトナムでも改めて強く思いました。

4. 感想

初めての海外、初めてのベトナムへ行き、得られるものがたくさんありました。ベトナムの文化、歴史、食、物、人々、全てが自分の抱えていた外国人に対する抵抗感を無くしてくれました。最初は、飛行機に乗る時点で不安ばかりで、一週間やっていけるか心配でしたが、現地の人と話したり、遊んだり、買い物で値下げ交渉などをしたりする中で、初めての海外という不安はなくなりました。そう感じることはできたのは、一緒に行ったメンバーのおかげにもよると思います。自分よりも英語を話すことのできるメンバー、英語が話せないのに現地の人と前向きに話すメンバーなど、みんなの影響で自分もやろうという気持ちになりました。みんなにはとても感謝しています。また、ほとんど二年生なのに、学年の差を感じさせないくらいフレンドリーで、ノリもよくて、一日一日が充実した日々でした。この経験を忘れずに、また機会があればたくさんの国へ行き、たくさんの経験と物事を多角的に見られる広い視野を養っていききたいです。

ベトナムで見たこと、感じた事。

福島県立郡山北工業高等学校
電子科 3年

1. 学校訪問

今回、ホーチミンのベトナム日本人協力センター (VJCC)、ハノイのハノイ工業職業訓練短期大学 (HIVC) の二校を訪問した。

VJCC は日本語教育に力を入れており、本

研修のような国際交流を通してビジネス人材を育成する学校だ。現地の学生、特に私と交流したユンさんの発音は非常に明瞭で、本物の日本人にも引けをとらないレベルだったということを感じている。

HIVC は、「国際」、「即戦力」という要素を重視している大学だと感じた。建物自体は築 40 年を超えており、一見古い印象を受けるのだが、いざ入ってみるとそのようなイメージは一瞬で覆されてしまった。NC フライスに自動溶接機、果ては Samsung のロゴが入ったスマホの分解・組み立て演習室（なぜかそこだけ建材が新しくなっていた）まで、自分の学校よりも高度な機器が揃えられていた。それらを扱えるようになるため、韓国や日本などの先進国から講師を招いている。上に「Samsung のロゴが...」と書いたが、大学内には「Fundai」のロゴが刻まれた自動車の整備訓練を行うガレージもあった。このように、HIVC は主に韓国の企業と連携し、指定の訓練コースという形で教育を行っている。卒業後は、その企業にそのまま勤めることができるそうだ。



HIVC にある Samsung の演習室。

2. 企業見学

日本人なら誰もが知っている乳酸菌飲料メーカー「ヤクルト」のベトナム・ホーチミン工場を見学した。私は日本でヤクルト工場を見学した経験がなく、ベトナムに来て初めて工場を見学することになった。



ヤクルト・ホーチミン工場

見学前に現地のヤクルトを飲ませてもらったのだが、日本のものとは違って少し甘めだったという印象を受けた。

その味の素になっている乳酸菌は、日本から持ち込まれている。培養器に菌を移す工程では、雑菌の混入を防止するために、培養器のフチをバーナーであぶって殺菌するというワイルドな方法で殺菌が行われていた。こうして無事に移された菌は、最終的に 12000L ものタンクで、ヤクルト 70 万本分もの数に増やされる。12000L と聞くと途方もなく大きなものに思えるのだが、日本の工場ではその 10 倍以上のタンクを複数使って生産しているとのことであった。

最終的に砂糖等で味をつけられボトルに封入し品質検査をして出荷となる。日本では二週間程度の賞味期限だが、ベトナムは品質検査と輸送に時間を要する等の理由から 40 日と、かなり長く設定されている。

他にも、売り込みや社会貢献のため、日本と同じくヤクルトレディがおり、専用の教育コースも用意されているそうだ。

3. 現地の見学

ホーチミン観光で私が歴史上とても重要だと感じたのは、クチトンネルの見学だ。

クチトンネルは、ベトナム戦争時に南ベトナム解放民族戦線が米軍・南ベトナム軍との戦闘の際に潜伏し、同時に生活の場としても用いた手彫りのトンネルのことである。中は

屈まなければ通れないほど狭くなっており、完全武装の大柄な米兵は到底通れない。しかも、トンネル内外の至るところに地雷や落とし穴が仕掛けられていたそうだ。

元々は南北の内戦だったのだが、アメリカの介入によって世界的に大きな戦争として知られるようになった。米軍はジャングルに紛れて戦う北ベトナム軍を相手に苦戦し、最終的に撤退してしまう。当然、南ベトナム軍はひとたまりもなく大統領官邸(現:統一会館)に突入されてしまい、終戦を迎えた。そうして、今のベトナム“社会主義”共和国となった。

ちなみに、当時使われていた銃火器類も多数展示されており、レストアされたものは射撃場でアミューズメント用として使われている。銃声を聞いたのは初めてだったが、凄まじい音量だったのを覚えている。

また、ハノイではハロン湾のクルーズに感銘を受けた。ハロン湾は、大自然が長い年月をかけて石灰岩の大地を浸食し作り上げた湾で、地理的にも珍しい。切り立った針のような島や断崖絶壁から植物が生えているという、日本では絶対にお目にかかれないような景色が広がっていた。一生に一度は訪れるべきだと思った。



世界遺産・ハロン湾

4. 感想

今回の研修では、計 20 近い観光地や施設を訪れ、それぞれ素晴らしい経験を積むことができた。その中で特に印象に残ったものに

ついてこうして書いている。

しかし、観光地に行かずとも、日本と違う、日本では「普通」ではない点が随所に見られた。その代表例といえば電柱だろう。普通に考えてみれば、電柱はケーブルが数本伸びていて...というくらいだが、現地のものは数百本のケーブルを「絡めた」という表現がピッタリなほど汚い。その重量故か、ケーブルが手を伸ばせば掴めるくらいの高さまで垂れ下がっていることもあった。

しかし、ベトナムでは急速に無線化(スマホやwifi 端末)が進んでおり、無電柱化に力を入れているのだという。私は出発前から「電柱と無線化」について見てこようと思っていたのだが、ホーチミンに到着して早速、空港のロビーで4GのSIMカードを契約するブースを発見した。しかもお値段 100,000VND(500 円相当)。その他、街中にも同様な屋台が至る所に見られ、それだけ急速に発展しているのが垣間見えた。少々やりすぎな売り方にも思えたが。

日本にいただけでは、「電柱が汚い」くらいの断片的な情報しか手に入らない。しかし実際に行ってみるとその様子がとてもよく見えてくる。「電柱は確かにすごい様子だが、今はスマホの普及にあわせて町中至る所で破格のSIMカードが売られている」という風になだ。このことから、物事を変えるときは日本では考えられないくらい大胆に、かつ猛スピードで進めているということを学んだ。

それ以外にも出発前から意識していたことがある。「言語」だ。参加理由書を書く段階では、「英語、英語」と張り切っていたが、現地の市場やお店に行くと、なんと日本語で売ってくるのである。とはいえ、彼らにできるのは簡単な会話くらいだけだったので、極力簡単な日本語で受け答えをし、理解してもらえない部分だけは英語を使うという工夫をしたみた(結局、ともに英語だけで話しをしたのはCAさんだけだったと思う)。英語圏の国でなければ、私のように英語のスキルが最低限でも問題にはならなさそうだった(でも、

現地語であいさつくらいはできるようにしよう)。

現地語が話せなくとも代わりに英語を話してみたり、それでもだめなら身振り手振りでコミュニケーションをとり、世界中のどの国の人とでも関われる人になること、これこそが私の目指す「国際人」の像だ。

最後になりますが、本研修に参加するにあたり協力してくださった皆様方、私と仲良く接してくれたメンバーのみなさんに感謝します。貴重な経験を本当にありがとうございました。

第18回高校生海外研修報告書 ～ The Vietnam Training Report ～

茨城県立水戸工業高等学校
機械科 2年

今回、全国工業高等学校長協会が主催する第18回高校生海外研修に参加することになり、自身初となる東南アジアの国、ベトナム社会主義共和国へ行った。計21名の全国から集った工業高校生と共に、教科書の文面と写真でしか見たことのない景色、生活、文化に触れ、貴重な体験をすることが出来た。

1. ホーチミン市

成田空港を出発しタンソンニャット空港に到着すると、夕方までホーチミン市内の観光をした。統一会堂、サイゴン中央郵便局、大教会と歴史ある建物を周り、戦争証跡博物館を見学した後、ベントイン市場とタンディン市場というホーチミンで有名な市場で買い物をした。

ベトナムは様々な国の文化の影響を受けた国ということもあり、建物はパリをイメージした洋風のものから、中国の影響を受けてできた寺のようなものまで様々だったが、この日見て周った建築物のほとんどはフランス統治時代のものであった。その中でも唯一、統

一会堂は設計から建設までベトナム人だけで行った建物だそうだ。

戦争証跡博物館には戦争で使われていた戦車やヘリ、銃、罪人の収容所や拷問器具の他、除草剤などの影響により産まれた奇形児の写真などが飾られていた。奇形児のホルマリン漬けやギロチンと切られた首の写真など日本では目にすることが出来ないような生々しいものも多く、恐怖感を覚えた。

市場での買い物では、現地の人とより自然にコミュニケーションをとることが出来たと思う。英語で会話する機会が多く、値下げ交渉にも応じてくれた。物価が安いので値下げ交渉などしなくても驚くような値段のものばかりだが、話しかけると半額にまで下げてくれることもあった。

初日にしてベトナムについての多くの歴史を学び、文化に触れることが出来たと思う。



ホーチミン市内

2. 企業視察（ヤクルト工場）

2日目のヤクルト・ベトナム工場の視察では、日系企業が海外で活躍している様子を実際に目で見る事ができた。工場自体は小さく、製造をしている従業員も数える程度しかいなかったが、製品の味は日本のヤクルトそのものであり、ベトナム国民からも高い評価を受けていた。ヤクルト以外にも、工業団地には多くの日系企業の工場が密集していた。

3. クチトンネル

企業視察を終えた後、昼食をはさんでクチトンネルへ向かった。このトンネルは、ベトナム戦争の際に人々がアメリカ軍から逃れるために造られた、全長200kmにもなる地下トンネルである。穴の大きさは、日本人のような小柄な大人が1人入るのがやっとの大きさで、アメリカ兵が入れないような仕掛けが多数施されていた。戦時中の隠れ家の役割だけでなく、戦闘にもトンネルを利用し、針を多用した罠を用いたりし、米軍を苦しめたと言われている。穴の中に実際に入ってみたが、中は非常に狭く暗いため、クチの人々があの穴のなかで長期間過ごしていたことに驚きを隠せない。

4. 異文化交流

3日目はベトナム日本人材協力センターにて現地の学生と文化交流を行った。言語の壁などという言葉のを忘れるくらい現地学生の英語と日本語が上手かった為、コミュニケーションにおいて不自由なことは何ひとつなかった。日本人と似たような人格の方が多く、優しく丁寧にもてなしてくれた。交流会では、ベトナム風にアレンジを加えたかるたをはじめ、強風のなか竹とんぼを飛ばして遊んだり、日本でいう蹴鞠のような羽を蹴る遊びを教えてくれた。連絡先も交換し、日本に帰って来ても会話をするような仲になった。

異文化交流を終えた後は、国内便でノイバイ空港（ハノイ市）に向かった。

5. B&Sプログラム

4日目はハノイ工業職業訓練短期大学に訪問し、現地大学生と昼食をとった後にB&Sプログラムを実施した。

残念ながら、前日までの疲れが出てきたのか朝から体調を崩しかけ、大学に訪問した際の施設見学には参加できなかった為、大学訪問等の報告は省略する。

B&Sプログラムでは大学生と一緒に現地のスーパー等で買い物をした。見慣れた日本

製品が多く驚いた一方で安心感もあった。なかには日本語で書かれている製品や味が日本のものと全く同じお菓子があったりと、日系企業の進出を感じる事が出来た。

体調管理の重要さを痛感し、現地大学生と教員、引率教員の優しさに感謝する1日だった。

6. ハノイ市

5日目はハノイ市内の観光をした。午前中は文廟をはじめ、ハノイ教会、ホアンキエム湖、ホーチミン廟、一柱寺を見て周り、午後はバッチャン焼の絵付け体験をし、夕食の後に水上人形劇を鑑賞した。

最初に観光した文廟は、ベトナム最古の大学であり、現在は学生の合格祈願をする場所になっている。赤く染まった寺の造りと4つの大門、石造りの亀や蓮の葉が浮かぶ池は、中国文化の趣も残しつつ、ベトナムらしさを感じる場所であった。

ハノイ教会は文廟とは一変、フランス植民地時代に寺を壊して建てられたキリスト教会であるため、同国内にして他国の建物を見ているようであった。教会内では実際にロウソクを立て、祈りを捧げているキリスト教徒もいた。

水上人形劇では、昼間に観光したホアンキエム湖の伝説やベトナムの人々の暮らしをテーマに、伝統的な音楽に合わせて、人や動物の人形が演劇や踊りを披露していた。特に竜や魚の動きが、まるで本物のように巧みに操られているのに感動した。

7. ハロン湾

最終日には、世界遺産であるハロン湾をクルーズ船に乗って観光した。海に浮かぶ島々は大きさも形も様々で、船が動いている間は決して似たような風景を映さなかった。島の岩肌も日本では目にすることのできない白黒の独特の模様をしていた為、非常に興味深かった。ダウゴー島とよばれる島に上陸し、鍾乳洞にも入った。やはり日本とは違うスケー

ルの大きさに圧倒され、ライトアップされた鍾乳洞内の美しさに感動した。



ハノイ市内とハロン湾

8. 感想

ベトナムの気候について、日本より暑さは厳しく感じなかったが、スコールが多かった。

事前に調べていた通り、街中の道路はバイクでほとんど埋め尽くされているのが印象的だった。日本と違い、歩行者優先ではなく車バイク優先なので道路の横断の際は非常に危険だった。

何より驚いたのは、ベトナムの学生が英語以外の日本語もかなり上手く使いこなしていたことだ。ベトナム人は勉強熱心な人が多いとは聞いていたが、英語も曖昧な自分達は見習わなければならないと思った。

異文化交流やB&Sプログラムで連絡先を交換した現地学生とは、今後も連絡を取り合い、数少ない海外の友人を大切にしたいと思っている。

今回、普通の旅行とは違い「海外研修」という形でベトナムに行かせて頂いたことによって、旅行では見られない日系企業の現状を学び、現地学生との交流をし、更に日本全国に友人が出来たことは、楽しかった、勉強になったの一言では済まされない。海外に行ったことで改めて日本の素晴らしさを痛感することも多く、今回の研修で得たものは非常に大きかったと言える。

家族をはじめ、学校の先生方や全国工業高等学校長協会、協力して下さった人々に、

この場を借りて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



ベトナムの街並み

ベトナム海外研修に参加して

栃木県立那須清峰高等学校
情報技術科 2年

私は、この度7月21日から全国工業高等学校長協会の海外研修に参加しました。ベトナムでは、学校見学や現地の企業見学をはじめ、ベトナムの文化に触れることのできる貴重な体験ができました。

1. 学校見学

ベトナムの学生さんとの交流のため、ベトナム日本人材協力センター(VJCC)とハノイ工業職業訓練短期大学(HIVC)に行きました。

VJCCでHUTECHの学生さんと交流しました。初めはとても緊張しましたが、ベトナムの学生さんが積極的に日本語で話しかけてくれたり、写真を撮ってくれたりするうちに、打ち解けることができました。一緒にかかるたや竹とんぼなどを体験したり、ベトナムの歌や日本語で歌を歌ってもらったりしました。学生さんとの交流の時間はあっという間で、別れる時はとても寂しかったです。

HIVCでは、ベトナムの学生さんと共に学校内を見学しました。車修理の勉強スペースや学校内でアルバイトできるスペースなどがありました。様々な場所を見学した中で私が最も印象に残っているのは、安全訓練室です。

安全訓練室ではヘルメットの重要性や、重い荷物を持つときに適した姿勢などを学ぶことができました。安全訓練室で学んだ 5000 人もの学生は、けがや事故をすることが無かったという話を聞きました。是非、日本にも取り入れてほしいと思いました。



VJCC の学生さんとの写真

2. 企業見学

ヤクルト・ベトナム工場を視察しました。ベトナム工場では、タンクやヤクルト容器の原料となるポリスチレン（30t）を日本から輸入しているそうです。工場長の岩男健仁さんは、日本製のタンクについて、「これほど輝くタンクは海外製ではあまりない」と褒めてくださり、誇らしい気持ちになりました。

この後、ベトナムのヤクルトも飲ませていただきましたが、味は日本よりも少し濃いように感じました。その理由として、日本はブドウ糖果糖液糖を使っている、ベトナムは砂糖を使用しているからだそうです。昔は日本も砂糖を多く使用していたため、ベトナムのヤクルトの味を懐かしく感じる人もいます。ヤクルトの飲み頃は、胃液が強い食前よりも食後が良いらしいので実践してみようと思います。

3. 現地見学

現地見学では、多くの場所を訪れました。ベトナム戦争証跡博物館では、ベトナム戦争について学びました。アメリカ軍による枯れ葉剤被害やベトナム人の子供が描いた絵、捕

虜制度、胎児のホルマリン漬けなど、実際の戦争の様子やその影響を目の当たりにして強い衝撃を受けました。また、今でも枯れ葉剤の影響を受け苦しんでいる人々がいることを知りました。ベトナムの明るい面だけでなく、このような陰の部分も目を背けずに見ようと改めて思いました。

B&S プログラムでは、スーパーと市場に行きました。スーパーでは、ベトナムの調味料や、竜眼（フルーツ）、ドラゴンフルーツ、ライスペーパー、インスタントフォーなどが売られていました。日本ではあまり見ない商品もたくさんありました。インスタントフォーは一つ 5,000VND ほどでした。日本と比べると物価はとても安かったです。

市場は、ベントイン市場、タンディン市場、ドンスアン市場へ行きました。市場へ行ったのはこれが初めてだったのでなにかもが新鮮でした。市場内はとても広く、食べ物や洋服、靴や香水などたくさんの商品が置かれていて、見ていだけでもとても楽しかったです。また、トイレを使用するのに 2,000VND 必要だということを知り、良い経験となりました。



ドンスアン市場の風景

続いての見学先は、ハノイ大教会でした。ハノイ大教会は、ベトナムで初めて建設されたキリスト教教会でフランス植民地時代の 1886 年に建てられました。見学日（7 月 26 日）はミサがなかったため人は少なかったです。しかし、ミサのある土曜日の午後や日曜日の朝は、多くの信者の方々が訪れるそうです。教会内は、白を基調とした壁で、天井が

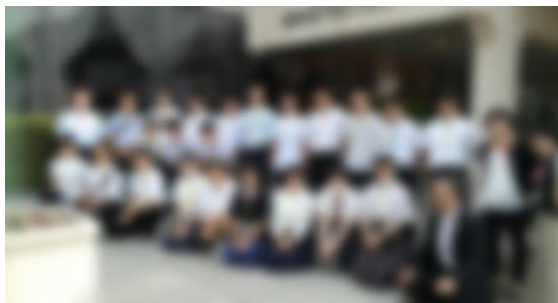
高く、たくさんのステンドグラスがありました。ステンドグラスは外からの光を受けてキラキラと光ってとても美しかったです。

ハロン湾では、昼食後に鍾乳洞へ行きました。今まで鍾乳洞はテレビでしか見たことがなく、とても楽しみでした。100段を超える階段を上り、洞窟内に入りました。年月をかけて自然が造った鍾乳石は、とても迫力があって美しかったです。

ベトナムでの食事は、朝食が宿泊したホテルで、昼食と夕食はレストランとホテルで食べました。青菜類の炒め物やカニのスープが高確率で出てきました。青菜類の炒め物は日本のおひたし、カニのスープは味噌汁の役割なのかもしれないと感じました。白いご飯（タイ米）は日本と比べて少し固めでした。また、現地で食べた本場のフォーはとてもおいしかったです。ガイドさんによるとスープが重要とのことでした。初めて食べる料理もありましたが、どの料理も本当においしかったです。

ベトナムの人の朝食は、フォーやバインミーを買って食べることが多いそうです。

バインミーとはベトナムのサンドウィッチで、長さ20cmほどの柔らかいフランスパンに切り込みを入れ、バター、パテを塗り、野菜、ハーブ類、肉などをはさみ、ヌクナムなどのソースをかけたものです。携帯性の良さから屋台だけでなく、バスターミナルなどでも売られているそうです。次回ベトナムに行ったら食べたいと思います。



集合写真

4. 感想

まず、今回のベトナム研修の機会を頂き、

大変感謝しています。研修全日程が新鮮なことで溢れていました。初めは仲良くなれるか不安だったメンバーとも打ち解けられ、心から充実できました。また、現地の方々は、私のたどたどしい英語を一生懸命聞いてくださいました。そして逆に、日本語でコミュニケーションを取ってくださったこともありました。彼らの優しさがとても嬉しかったです。私もベトナム人のフレンドリーな国民性を見習い、もっと多くの人と交流したいと思いました。日本とベトナム、同じアジア圏でも生活の様子が全然違うところも大変興味深かったです。

最後になりますが、全国工業高等学校長協会様には、プログラム日程以前からの準備、そして帰国後のサポートに至るまで、大変お世話になりました。ありがとうございました。

また、栃木県の工業部会長様をはじめ、工業高校の校長先生方、関係する先生方には、素晴らしい研修の機会を与えて頂き、大変感謝しています。本当にありがとうございました。

一週間の貴重な経験

群馬県立高崎工業高等学校
機械科 2年

～ベトナムに到着して～

入国審査を終えて空港から外に出て、まず思った事は、バイクが非常に多いという事でした。バイクが多いという事は知っていましたが想像以上に行き交っていて、その中には最高4人乗りをしているバイクもいて驚きました。さらに思った事は、クラクションの頻度です。研修中で、クラクションが聞こえなかった時は無かったといっても過言では無い位でした。歩道を走るバイク、逆に、車道の中を走る自転車でも、事故を起こしている人は見当たりませんでした。そこでわかったのは、ベトナムではクラクションは合図、ということでした。

1－1．VJCC 訪問

ベトナム日本人材協力センターの学生と交流をしました。私達は竹とんぼの出し物をしました。校舎の外で現地の学生達に飛ばし方を教えるために私が飛ばしたところ、勢い余って木の上に乗ってしまいました。学生達はすぐコツを覚えて上手に飛ばしていました。その後、校舎に戻り彼らが歌を歌ってくれました。すごいと思ったのはボカロの「夢と葉桜」です。日本語で完璧に歌っていて、とても綺麗でした。学生達はすごくフレンドリーで親しみやすかったです。

1－2．ハノイ工業職業訓練短期大学

大学の工場の中には古い機械や被覆アーク溶接機、旋盤などがありました。さらに車のエンジン性能を調べると思われる大きな設備がありすごいなと思いました。



アルゴンガスと炭酸ガス

2．ヤクルト工場見学

企業見学では、日本でも有名なヤクルトの製造工場を訪問しました。工場で働いている人の数は 60 人前後、日本人は工場長と代表取締役の 2 人だけでした。

まずヤクルトについての説明を受けた後、その工場で製造したヤクルトを飲ませてもらいました。ベトナムのヤクルトの味は日本に比べ甘味が強いそうです。私は言われるまで気づきませんでしたが、砂糖が多く使われており日本の昔のヤクルトに近いのだそうです。

説明を受けた後、製造場へ行き製造工程と現場で働いているベトナムの方々をガラス越

しに見学しました。工場長に「手を振ってみな」と言われたので振ってみたのですが、最初は気づかなく、集中し真剣に作業しているのだなと思いました。そのまま粘って振っていたら気づいてくれて手を振り返してくれました。

工場見学時に通路に展示されていた容器がありました。とても興味が湧き、工場長の許可を得て容器の原料を貰ってきました。これから樹脂の物性や特性、パリソンの成型方法などを調べてみようと思っています。



容器の原料パリソンとPS材

3．クチトンネル

ベトナム戦争時に使用されていた銃火器や隠し通路、拠点があり、当時の罌を再現したものなどがありました。隠し通路は実際に通る事が出来、通るときはしゃがみ歩きをしなければ通れない程、細かったです。私たちの通ったトンネルは、長さ約 50m でした。この狭い中で素早く移動するのは姿勢的にも難しく、当時の人達がいかに訓練して大変だったのかが、通るだけでもわかりました。



隠し入口に入る私

4. 感想

最初は初めて会う人達と、初めての「ベトナム」にとっても緊張していました。しかし、周りの人達はとてもフレンドリーに話しかけてくれて、すぐに打ち解ける事ができ助かりました。

ベトナムの人達も言葉はあまり通じずともジェスチャーで話してくれました。市場ではココナッツの中身を食べてみたいとジェスチャーをしながら言ったら、お店の人が喜んで開けてくれて、ベトナムの人の優しさに触れ、私は伝えたい気持ちとジェスチャーで言葉の壁は壊せるのだなと実感しました。しかし、色々な人ともっと通じあえるように、これから語学を一生懸命頑張りたいと思いました。

食文化も日本とは全く違って、口に合うかな？と思っていましたが、美味しい料理ばかりでした。驚いたのは水が有料だったことです。日本では何気なく飲んでいた水がとても貴重なことに気づきました。

この研修で、ベトナムの歴史や食文化、工業の発達、交通事情、大学の様子や人の優しさなど沢山の事を学べた事に、私を支えてくださった皆さんに感謝しています。この経験を色々な事に活かせるように頑張ります。

1週間って長いなと思っていましたが、あっという間に時は過ぎ、気が付いたらもう皆とのお別れの時間になっていました。

1週間ありがとう！

機会があったらまた会おう！

海外研修記録

埼玉県立進修館高等学校
ものづくり科 2年

1. 学校見学

学校見学では、ホーチミンでベトナム日本人材協力センター、ハノイでハノイ工業職業訓練短期大学を訪問しました。

ベトナム日本人材協力センターでは、日本語が堪能な学生さんと、自己紹介やお互いの国の文化について触れ合ったりする等の交流

を行いました。日本語が堪能といっても、やはり言葉が通じない部分が多少あったので苦労しましたが、逆に普段の生活では遭遇しないような場面に面白さを感じました。

ハノイ工業職業訓練短期大学では、始めに学校概要の説明、その後校内見学をしました。私は工業高校生なので、大まかな設備（旋盤や溶接機）や学んでいる事は同じようなものでしたが、大学に通う学生さんの中には田舎から来ている人も多く、生活費を稼ぐ為に車を整備する施設でのアルバイトや、就職率100%であった事等、ベトナムという国の状況が垣間見える時がありました。



大学の整備施設

2. 企業見学

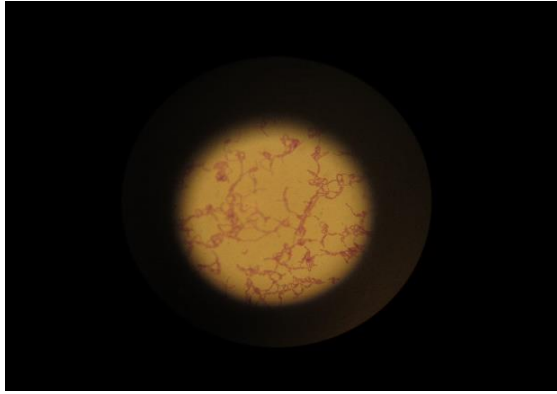
企業見学では、ヤクルト・ベトナム工場を訪問しました。

まず、ヤクルトについての簡単な説明を受けた後、ヤクルトの製造過程を視察しました。説明を受ける時間の中で、実際にベトナムで販売されているヤクルトを試飲する事が出来たのですが、ベトナムのヤクルトは砂糖が含まれている為、日本のヤクルトよりも甘いという印象を受けました。どちらかというと、昔の日本のヤクルトに近い味だそうです。

また、近年ベトナムでは、ヤクルトの生産本数が一年ごとに平均約 40 万本増加しているようで、これはベトナムで健康の為にヤクルトを飲むと良いと考える人が増えた事によるものでした。ちなみに、ベトナムのヤクルトは、5本パックと15本パックの2種類で販

売されていました。

工場内見学の時間には製造過程だけでなく、ヤクルトに含まれる L・カゼイ・シロタ株を顕微鏡で見たり、容器が加工されて出来る前の段階の物に触れたりと、全体を通して貴重な体験が出来ました。



L・カゼイ・シロタ株

3. 現地見学

現地見学は、ホーチミン、ハノイ共に様々な場所を訪問しましたが、その中でも強く印象に残った場所をいくつか挙げたいと思います。

戦争証跡博物館

見学時間は非常に少なかったのですが、恐らく私の中で一番印象に残った場所なのではないかと思います。名前の通り、ここではベトナム侵略戦争時期の写真や、当時使用されていた物が展示されています。私達はその中でも、屋外にある捕虜制度の内容の展示が行われている場所、同じく屋外にある様々な戦闘機が並べられている場所、屋内の戦争における枯れ葉剤に関する内容の展示の場所を見学しました。

捕虜制度の内容の展示エリアでは、最初に入る部屋に実際に使用されていたギロチンが展示されており、ギロチンの全長は 4.5m、刃物の重量は 50 kgで、説明写真には、兵士がギロチンを受けた人の生首を持っているというとても残酷な光景が映し出されていました。更に進むと、捕虜の収容所の様子の展示があり、牢獄のような所に人 1 人がまともな服も

着させてもらえない状態で収容されていました。壁には、言葉は読むことが出来なかったのですが沢山の文字が書かれており、どれ程当時の捕虜生活が苦痛なものであったかを物語っていました。

屋外展示エリアでは、沢山の戦闘機が展示されていました。飛行機という枠の中だけでも 1 種類だけではなく、数種類の型が存在しており、それは一緒に展示されていた戦車でも同様で、いかに多くの敵を殺し、戦争に勝利しようとしていたかが見受けられました。

屋内の枯れ葉剤に関するエリアでは、枯れ葉剤による被害を受けた方々の多くの写真が展示されていました。その 1 枚 1 枚の写真はどれも生々しいものばかりでしたが、現実から目を背けてはいけない、このような状況こそ、もっと多くの人々に知ってもらわなければいけない、そんな事を感じさせられるものでもありました。

クチトンネル視察

クチトンネル視察では、米軍とベトナム兵の戦争状況をビデオと施設内見学をしながらの説明によって学びました。

そもそもクチトンネルというのは軍事基地管理局や、軍事地域最高司令部で、クチ県庁の根拠地であり、ベトナム統一に貢献した場所です。

ビデオ鑑賞でクチトンネルが当時どのように使用されていたのかを知った後、施設内見学の際にそれらを見て回るという流れだったのですが、まず見たものは、トンネルへの出入り蓋でした。基地内には、全長 250 km 以上あるベニユック地下道があり、その地下道に入る為のものとして使用されていました。この地下道は、ベトナム兵が生活をしたり、戦争で移動したり、戦う時の通路でもあったので、敵（米軍）になるべく地下道が見つからないよう、蓋は落ち葉等で隠されており、一目見ただけでは分からないようになっていました。また、生徒の中から数名が、その出入りする穴に入ってみるという体験もしました。

次に見たものは、落とし穴と罠です。落とし穴は何種類もあり、一度踏み込むと床が回転して針のある穴に落ちるタイプのものや、踏み込んだときに蓋の両側についている針が足に刺さるようになっているものがあり、スタッフの方が全て棒で動かして実演してくださいました。扉を開けると針のついた板が降りてくる、という様な罠もありました。とにかく、一度はまってしまったら抜け出せない、とても良く考えられたものばかりで、当時のベトナム兵の賢さを知りました。

最後は、ベニユック地下道へ全員で実際に入る体験をしました。トンネルは深さ3m、6～8m、10mの3構造（地下3階建て）になっており、大きさはわざと狭く作られています。これは先程の説明でも書いた通り、敵（米軍）がトンネル内に攻めてきて戦う事になった時に、体の大きい米軍兵達がスムーズに通ることが出来ず、痩せているベトナム兵のみが通れるようにと狭く作られました。トンネル内には、勿論今は塞がれていますが、落とし穴もいくつかあったそうです。

トンネルは短いコースと長いコースの両方が体験出来るようになっていて、短いコースは全員で、長いコースは希望者だけであった為、折角なので私は長いコースも体験しました。短いコースでも中腰にならないと進めないのと、上り下りが多かったので中々厳しかったのですが（先生も悲鳴を上げているほどでした…）、長いコースは更に厳しかったです。途中で道は分からなくなってしまうし、何より暑い。同じ位の体型の私達でも厳しいのに、ベトナム兵の方達はよく動き回る事が出来たなと感心しました。

ハノイ大教会

前に挙げた2つの場所は、内容がとても強く印象に残ったものですが、このハノイ大教会はどちらかというと、建造物の全体的な美しさが印象に残った為挙げました。教会のデザインは、フランスの建造物の作りを取り入れており、これは元々フランスの植民地時代

に建てられたものであるからです。

今では週に2回、土曜日の夜と日曜日の朝使用されています。中に入ると、正面に息を呑む程の大きく美しい装飾とステンドグラスがありました。端の方には懺悔室があり、構造としては個室が2つくっついている形で、それぞれ牧師さんと懺悔する人が入るそうです。



ハノイ大教会正面部分

ホアンキエム湖

ホアンキエム湖は、この湖の名前に纏わる伝説が面白かったので挙げました。

伝説によると、湖から出てきた鉄で作った剣をモンゴルとの戦いで使用したところ、戦いに勝利することが出来た。その後、湖で王が宴をしていると、大きな亀が出てきて、剣を返して欲しいと王に言ったそうで、王は驚いたが、剣を返した、という内容が伝えられており、そこからホアン（＝返還）キエム（＝刃）湖という名前が付いたそうです。余談なのですが、この伝説は水上人形劇の話の内容の中にも組み込まれていました。また、時代の状況によって緑水湖、水軍湖等呼び方も異なっています。

4. その他

ベトナム料理

ベトナムの料理は、私自身フォーや生春巻き位しか知らなかったもので、研修でその豊富な種類に驚きました。

ベトナム料理は、中国文化や植民地時代の

フランス文化の影響を受けており、あまりクセがなくマイルドな味付けになっているものが多いです。実際に、クセがある料理（例えばパクチー等）が苦手な私でも、美味しく食べる事が出来る料理ばかりでした。

また、北部と南部で味の付け方も異なるようで、ハノイ（北部）は他の地方に比べて塩や味の素を多用したやや塩辛い味付け、ホーチミン（南部）は砂糖やハーブを多用し、全体的に甘い味付けが多いそうです。その違いは残念ながら分からなかったのですが、どちらかというと海鮮料理（特に海老が多く使われている物）が、どちらの街に居ても頻繁に登場したイメージの方が強いです。ベトナムの輸出額を見ると、水産業は縫製品、原油に次ぐ第3位であり、水産業の生産量のうち養殖業は半数を超えています。そして、海老やナマズは中でも特に生産量が多い品目となっています。つまり、その地域でよく獲れる食材、今回の場合海老が多く登場したというわけでした。他には、生春巻き、揚げ春巻き、フォー、野菜の炒め物、揚げ物もよく登場しました。

フォーは平たいライスヌードルで、ベトナムでは最もポピュラーな麺類の1つです。米麺に牛骨から取ったスープをかけ、牛肉を乗せて食べます。ベトナムの料理は基本的に8割程しか味付けをしないスタイルなので、お好みでパクチーやハーブを入れたりもします。

生春巻きはゆでた海老、生野菜等をバインチャン（米で作った皮）で包んだものです。お好みで、甘い味噌とナッツが混ざっているものや、ヌクチャム（ベトナムの万能つけだれ。砂糖、ライムの絞り汁、酢、唐辛子、ニンニク、水等を混ぜたもの）に浸して食べたりします。個人的に、みそ&ナッツの混ぜたものにつけて食べる食べ方が一番美味しいと感じました。

揚げ春巻きは挽肉やキクラゲ、蟹肉、春雨等をバインチャンに包み、揚げたものです。生春巻きよりも小ぶりで、お好みでヌクチャムに浸して食べます。

バッチャン焼き

バッチャン焼きは、首都ハノイから10 kmの場所にある人口約5000人の村「バッチャン村」で作られている陶器です。14世紀頃から始まったといわれ、600年以上の歴史を持っています。作り方は、ろくろを回すのではなく粘土を型に流し込み、上から圧力をかけて成形します。

今回、私達は絵付けの工程を体験しました。着色されたさらさらした液体と筆を用いて描いていくのですが、液体の量が少しでも多くなってしまうと描く際に滲んでしまい、細い線が描けません。逆に少なすぎても線が掠れてしまいます。始めは簡単な作業だと思っていた私も中々上手に描けず、苦戦しました。しかし、時間を掛けて描き上げた時と、その作った物が焼き上がって完成した物を見た時は、やはり嬉しかったです。他の国の工芸品、文化に触れることの楽しさを知りました。

5. 感想

この海外研修で学んだことは3つ、人との関わり方、他国の異なる様々な文化と、日本の安全さ・良さです。

日本の各都道府県から来た全く知らない人達と、知らない地へ行く。これから先の人生では中々ないシチュエーションではないでしょうか。様々な性格の人がいました。全く同じような人はいない。その1人1人に対する柔軟な対応力、コミュニケーション力が鍛えられる場であり、これは社会に出てからも重要となってくる事の1つであると思いました。

日本という国以外の文化、異なる部分を知りたいという理由から研修に参加した私にとって、今回の研修内容はとてもバランス良く構成されているものであったと感じました。母とも話していたのですが、有名な観光地巡りだけでなく、戦争証跡博物館やクチトンネル視察等、普通なら目を背けてしまいそうな場所もしっかりと回ったり、現地の学生さんとも交流が出来たり、企業を訪問したりと、これだけ多方面にわたって学べる機会という

のは無いと思います。

また、他国（ベトナム）の様子や文化を詳しく知る事で、日本がいかにか安全で良い国であるかを知る場面も沢山ありました。例えば、街のゴミです。バスで移動している時や歩いている時に、道路に沢山のゴミが落ちており、不衛生だなと思う時が多々ありました。日本ではたばこ等、多少のゴミは落ちている事がありますが、大体は綺麗であると思います。

他には、交通面です。ベトナムは特にバイクの交通量が多かったのですが、とにかくそのバイクや車が我先にと無理矢理通り抜けようとしたり、長く待機するという風習が無いのか、どけと言わんばかりにクラクションをすぐ鳴らす人がほとんどで、常に街の道路はそのような状態でした。乗車しているバスにぶつかってしまうのではないかとという位すれすれの所をバイクが通ったりした時もあったので、とてもひやひやしたのを覚えています。

しかし、これらの事は私達が日本という国の中で、この状況より良い環境を見て育ってきてしまったから良く思えないだけであって、ベトナムの方達から見れば、普通の日常の一部の光景でしかないのだと感じました。

この1週間は短い期間ではありましたが、良い仲間達と興味深い事をいくつも学ぶ事が出来、とても有意義なものとなりました。

ベトナム海外研修に参加して

新潟県立新津工業高等学校
日本建築科 2年

1. Hanoi Industrial Vocational College を見学して

日程表の中に工業大学へ訪問するというので、海外の工業学校は、私が学んでいる事と何が違うのかが気になりました。違っていたのは、安全に作業をする為の知識も学んでいたことです。重い物を持つ時の体の使い方など体に負担がかからない方法を学んでいました。

車のエンジンの製作やスマートフォンの修

理をしている学生の作業風景を見せてもらった後、ヘルメットの耐久性を調べる機械を見学しました。技術・技能の学習ばかりではなく、耐久性試験の重要性も学ぶことができました。



ベトナムと日本の友好記念碑

2. ヤクルト工場を見学して

小さい頃に、よく飲んでいたものはヤクルトでした。今はそんなに口にしていないのですが、工場見学をした際にもらったヤクルトは、日本よりも甘い感じがして、美味しかったです。ベトナムでは、ヤクルトによって子供たちの健康が保たれているので、とても需要が高く、1日に40万本も売れているそうです。ヤクルト菌の管理も徹底しており、ヤクルトが世界で愛されている理由が分かりました。



ヤクルト容器の写真

3. クチトンネルを見学して

研修の中で、もっとも興味深かった場所が、「クチ」と呼ばれている土地に作られた、戦

争の為に使われた地下道でした。そこは森の中でしたが、見えないところに敵を迎撃するための罠や、身を守るための場所が多く残っていました。戦争時、クチの人々はそれらを活用し、敵だったアメリカ軍と渡り合ったというのだから驚きです。罠には、落ちた先に針が敷き詰められているものなど、多種多様な落とし穴がありました。一番驚いたのが、下図の身を隠すための穴です。これは一度塞がってしまうと、どこに隠れているのかが分からない程、精巧に作られていました。



実際に身を隠す瞬間

4. 現地交流について

今回の研修で楽しみにしていたのは、現地の学生との交流でした。

交流会で、日本の文化を伝えたいと考えていましたが、どのように伝えたら良いのかと悩みました。考えた末に、日本の文化を伝えられることができ、お互いに楽しんでもらえる物として、竹とんぼを日本からのお土産として持参することにしました。竹とんぼで遊んだり、共に歌ったりして、非常に楽しい文化交流をすることができました。

学生の方達は日本語を学んでいたのですが、会話に困ることはありませんでしたが、私たちはベトナム語を学んでいかなかったのが、少し不勉強さを感じました。ベトナム語を使っただけの簡単な会話ぐらいは習得しておいたほうが良いと思いました。

5. 感想

最初は、一週間はとても長いものだと考え

ていましたが、実際は本当に短く、共に過ごした仲間とも、こんなにも早く別れが来てしまうものなのかと思いました。言葉も、簡単な英語で伝わる場面が多かったですが、せめて少しでも、ベトナム語を話せれば、この一週間もまた別の体験が出来たのだろうかと思ひ残りはあります。それでも、周りの人とのコミュニケーションなども、自分なりに頑張り、それなりの結果と成長を感じています。これで終わりなのではなく、ここで学んだ数多くのことを活かせるようにしていきたいと思いました。

ベトナムを肌で感じて

長野県駒ヶ根工業高等学校
電気科 3年

1. 学校見学について

ハノイ工業職業訓練短期大学（HIVC）では国は違えど同じ工業を学ぶ学生と交流することができた。また、学校内の案内をしていただき、設備などを見学することができた。

学校は、各国からの支援を受けており、溶接機・旋盤など日本企業の製品が多く見られた。しかしながら、自動車、ロボット、安全教育施設など、日本以外の国も支援しているようで、校内の多くの場所で先進国企業のロゴの入った機材が多く見られた。



ハノイ工業職業訓練短期大学

見学後、学生や先生方と懇談する機会があり、「もし同じ待遇で、ベトナムに進出している日本企業と日本以外の企業のどちらかに就

職するとしたら、どちらの企業選びますか？」と質問をしてみたところ、皆「日本企業に就職したい」と答えてくれた。理由は、日本の高い技術力の下で働いてみたいとの事であった。

2. 企業見学

ヤクルト・ベトナム工場視察では、日本人工場長の岩男様の案内で工場内を見学した。工場は、ホーチミンから自動車で1時間ほどの工業団地に所在しており、周辺には日本企業の商業施設や、シンガポール企業の工場なども見られた。工業団地には常に安定した電力と浄化された水が供給されているが、ヤクルト工場では自家発電設備が整っており、水も工場内でさらに高品質な水に浄化し使用している。

作業員は、主にベトナムの大学を卒業した学生を採用しており、基本給は日本円にして2万5千円程度だそうだ。この給与は、工業団地内では平均的な給与だが、周辺の企業ではさらに高い給与を支払う企業もあり、人材確保は近年難しくなっているようだ。ただ、ラインの職員は品質管理部などに異動希望している人が多く、勤勉さがうかがえた。商品や工場内の生産設備の運搬は日本企業が行っており、異国の地での日本企業間での連携を見ることができた。



ヤクルト工場にて

3. 現地見学について

統一会堂は、南ベトナム政権が使用していた施設で、施設内にはベトナム戦争終戦直前

に門を突き破り突入してきた北ベトナム軍の戦車2両が展示されており、迫力を感じた。会堂地下には、アメリカ大統領とのホットラインやラジオ放送設備が展示されていた。また、屋上には緊急脱出用のヘリコプターも展示されており、実際に使用されていたことを考えると、その緊迫性が伺えた。

戦争証跡博物館では、ベトナム戦争で日本人カメラマンの沢田教一氏の撮影した写真が展示されており、日本人が記録した写真が世界に大きな印象をあたえ、戦争の悲惨さを伝えたことを知り、誇らしくも複雑な気持ちになった。

ホーチミン市は全体的にハノイに比べ交通量が多く、日系企業やベトナム以外の国の企業も進出しており、店舗や事業所を見ることができた。

ハノイ市では、B&Sプログラムの学生と一緒に、ショッピングセンターと市場に行った。ショッピングセンターは閑散としており、物価も日本国内より高く感じた。建物もきれいに整備されており、有名ブランドの店舗が多く見られた。学生はほとんどこのショッピングセンターに来ることはないそうだ。それに対し市場は物価も安く、人が入り乱れており、床にゴミが落ちているなど、日本では見ることのない光景が広がっていた。

4. 感想

日本国内では感じたことのない「熱気」や「いきおい」のような、発展途上国独特な雰囲気を感じた。また、戦争終結をうけ、生活が安定し若者が増えたからなのか、ベトナム滞在中にバスから見ているときでも、行き交う人のほとんどが30代以下の若者であった。

今回、交流した現地の学生はみな日本語がうまく、他に英語、中国語を学んでいる者も多い。HIVCでも最新の機材を扱っており、この点でも「いきおい」を感じた。私は、他の発展途上国も同じような状況にあるとしたら、日本が人口減少していく中で今後も同じ

ように“工業大国”としてふるまっていくのは、厳しいものがあるのではないかと感じた。私の周りには、世界のこの状況を知らずに楽観的に見ている人が多い。今回、私が体験したことを多くの人に伝えていきたいと思う。

ベトナム研修に参加して

愛知県立春日井工業高等学校
機械科 2年

1. 学校見学(ハノイ工業職業訓練短期大学)

こちらの短期大学は、工業系の仕事に就きたい人のための短期大学であり、日本の工業高校と概ね同様の設備がありました。

その中で、学校の実習で使用する旋盤や溶接などの設備があり、グラインダー(研磨機)を見た際、砥石と支持台との間がかなり空いており、安全面において、まだまだ不十分な箇所があると感じました。また、安全確保に向けての取組としては、校内に5Sと書かれている看板があり、この点においては、日本と同様であると思いました。

また、学校内では、サムスンやヒュンダイなどの韓国企業が目立ちましたが、日本企業への就職希望のある生徒が多いとの校長先生からの話を聞き、安心したのと同時に嬉しかったです。



校内にあった5Sの看板

2. 企業見学(ヤクルト・ベトナム工場)

VSIP ビンズン Park II 都市開発&工業団地にあるヤクルトの工場を見学させていただきました。ベトナムのヤクルト全体でローカル

社員が583名で日本人の社員はたったの7人でした。その中で、ローカル社員約78%が営業職であり、地元を十分に熟知した方々が従事することは、非常に良いことだと思いました。

そして、ヤクルトレディも461名おり、ベトナムでは1日平均27万本消費されていて、幅広い層に売れており、特に、小さな子供がいる家庭でよく売れているそうです。

ヤクルトの製造に使われる水は、地元の水を工業団地で浄化し、更に工場内でフィルターを通し、綺麗にして使用しています。

そして、ヤクルトの元になる菌は日本から持って来て、ベトナムの工場で培養しており、1日に35万本を製造しているそうです。

工場内には、生産ラインの説明用の映像やパネルなどがあり、どの様な製造工程なのかわかりやすくなっていました。



生産ラインの流れ図

3. 現地見学

まず、ベトナムに来て驚いたことはバイクの数です。日本では考えられない数のバイクが車道に並んでいて、「自分の知らない国に来た」と実感しました。

ベトナムの大きな建造物は、多くがフランスの建築家のデザインであり、フランスの植民地だった影響が出ていると思いました。

戦争証跡博物館では、ベトナム戦争に実際に使用された銃、爆弾、戦闘機や戦車、更には当時、捕虜が収容されていた監獄を再現した設備もありました。

クチトンネルはベトナム戦争中にベトナム

ゲリラが手掘りで掘った全長 200 キロの地下トンネルネットワークです。カンボジア国境付近までトンネルが張り巡らされており、トンネル内は狭く、大人 1 人がぎりぎり通れるくらいでした。

ベンタイン市場は、人が横に 2 人ほどの間隔で店が立ち並んでいる市場です。ガイドさんからは、「ブランド品は 200% 偽物であり、価格交渉が必須である」と言われました。

また、フルーツなどの賞味期限が明記されていない食べ物はいつの物かわからないので不安を感じました。

しかし、上手く値段交渉をすれば正規の店よりも安く買うことができるそうです。



市場にある店内の様子

4. 感想

今回のベトナム研修で感じた事が 2 つあります。

1 つは衛生面についてです。日本とは圧倒的に差があり、ベトナムでは川が青いことはなく全部茶色でした。そして、現地の水道の水を日本人は飲むことができません。

また、市場にあるフルーツは梱包せずに積まれていて虫がたかっても気にせず、衛生管理が不十分であると同時に、日本がどれだけ恵まれているかを実感しました。

2 つ目は、ベトナム人が日本人よりも勤勉であることです。小学生は朝 7 時から登校し、下校後、夜の 9 時まで塾に行っているそうです。そのため、ベトナムの多くの大人は、ベトナム語の他に英語を話すことができます。そして、真面目な人も多く、日本人よりもた

くさん勉強していると思いました。日本人に英語を話すことができない人が多いのは、語学学習に費やす時間が少ないことも原因の一つであると感じました。

私は、この研修をとっても有意義に終えることができました。なぜなら、自分の思っていた外国のイメージが変わったとともに、英語力の乏しさを実感することができたからです。自分の知らない地での旅は本当に楽しく、他国の文化に触れ、視野を広げることができました。この研修で得た知識や経験を今後の学校生活に生かしたいと思います。

高校生海外研修に参加して

岐阜県立大垣工業高等学校
建設工学科 2 年

1. ベトナム日本人材協力センター

現地の人とより交流するためにベトナム日本人材協力センター(VJCC)を訪問しました。

緊張から積極的に話せないでいた私に、ベトナムの学生さんから自己紹介をしてくれ、自然とお互いの国について話せるようになっていました。ベトナムでは、名前と一緒に住んでいる地域もあわせて紹介するそうです。岐阜県と言っても伝わらないと思い、日本の真ん中の辺りにあると伝えると理解してもらえました。また、自己紹介を兼ねて日本の伝統的な文化を知ってもらおうと考え、持参した折り紙と一緒に鶴を折りました。「難しい」と言いながらも、完成した鶴を見てとても満足してくれました。

それぞれの交流時間が終わるとカルタゲームをしました。絵札は日本やベトナムの観光地や文化に関するもので、札を取った後には描かれているものが何かをお互いに質問しながら、さらに交流を深めることができました。

カルタゲームの後には、外で日本の竹とんぼとベトナムの羽を蹴るゲームをしました。竹とんぼは、女竹製溝切り飛ばし機(シューター)というものを使い飛ばしました。私も初めて使ったので、なかなか使いこなせませ

んでした。そんな中でも、私たち日本人よりも竹とんぼを使いこなしている学生さんがいて、びっくりしました。羽を蹴るゲームは、羽の部分がスポンジでできていて先に重りをつけたものを使い、足だけを使って地面に落とさないようにするゲームです。あまりに難しく何度か手を使っていました。

再び室内に戻ると、ベトナムの歌と、ベトナムの歌を日本語に翻訳した歌、そして日本の歌を披露してくれました。どの歌もとてもしゃいい歌で楽しく聞くことができました。私たちも今回の交流と歌のお礼を兼ねて「世界に一つだけの花」を歌いました。交流直前に決まったことなのでぶっつけ本番で歌いました。お互いに声が出せるか心配でしたが、最後まで声を出し歌いきることができました。歌い納めにベトナムの南部民謡の「リーカイボン」という曲を歌いました。現地の人も難しい歌で、リズムが速くなるところはとても難しかったです。

最後に記念写真を撮り始めると、楽しかった時間もあっという間に過ぎていたことに気付かされました。現地の人の文化や遊びとともに、優しさ、楽しさに触れることのできる充実した時間を過ごすことができました。



ベトナム学生とのカルタゲーム

2. ヤクルトベトナム工場視察

日本のヤクルトとの違いを比較しようと目的をもっていったヤクルトベトナム工場。実際に飲んでみると、私の想像とは違い日本のヤクルトとあまり変わりありませんでした。ヤクルトを製造するタンクも日本製で、容器

のポリスチレンは日本から輸入していて、形も日本と同じものでした。さらに、ヤクルトに入っている乳酸菌シロタ株も日本のものと全く同じものだということを聞いて驚きました。

しかし、味、舌触りに関しては日本のものと少し違いました。日本のヤクルトはブドウ糖果糖液糖を使い、ベトナムでは砂糖を使っているそうです。私は飲んでみて日本のものより少しざらざらとした舌触りだと感じました。それは砂糖で作っているからなのではないかなと思いました。ベトナムのヤクルトもとてもおいしかったです。海外のヤクルトを飲む機会はめったにないので貴重な体験になりました。



ヤクルトベトナム工場にて

3. ベンタイン市場・ハロン湾クルーズ

ベンタイン市場は人が多く、お店がひしめいて並んでいました。ドライフルーツや香水、民族衣装のアオザイなど様々なものが売られていました。市場ではドリアンなどの果物が売られており匂いがとても独特でした。それでも市場の中では値切ることができ、お得さと楽しさがあります。市場のものを買った人の中には、初めに提示された値段よりも大幅に安く買えた人がいるそうです。海外に来て値切り交渉をする日が来るとは思ってもみませんでした。

世界遺産のハロン湾では、船の出発時は雨で、きれいな景色は見れないと諦め、船でおいしく食事をいただいていた。船が進んでいくと少しずつ晴れ、きれいな景色が見え

できました。ベトナムならではの地形、ごつごつした大きな岩や島が点々と存在し、所々霧に浮かんでいるように見える景色がとても不思議でした。島の一つに上陸して鍾乳洞を見たとき、自然にできたからこそその景色に魅了されました。



ハロン湾

4. 感想

今回の海外研修は初めて体験することばかりで不安が沢山ありました。しかし、初日から積極的に話しかけてくれる人が沢山いて、緊張が解けるのがとてもはやく、いいスタートがきれました。ベトナムに行ってから、戦争の歴史や文化について沢山学ぶことができました。統一会堂という建物は普段は観光地となっていますが、現在でも市役所の人を使うことがあるそうです。天井が高く、とても広々していました。部屋数が多く、日本と違った建築物に圧倒されました。現地の人とも様々な交流ができて、別れがとても惜しかったです。バッチャン焼きの絵付け体験では、焼かれる前の絵付けされた作品を見ることができました。まるでコピーしたかのように同じ絵柄のものが並んでいて、さすがプロの仕事だなと思いました。日本にはないデザインや色遣いは、とても興味深かったです。家にいて本を読んだりインターネットを見ているだけでは知りえないことを学び、体験させてもらえました。

この研修に参加するうえで支えてくれた多くの人に感謝しています。この海外研修は私

にとって貴重な体験となりました。本当にありがとうございました。

初めての海外“ベトナム”

三重県立桑名工業高等学校
電気科 2年

1. 学校見学

私はベトナムで2つの学校を訪問しました。1つ目はホーチミンにあるベトナム日本人材協力センター(VJCC)、2つ目はハノイ工業職業訓練短期大学(HIVC)です。

VJCCではベトナムの大学生の方と文化交流をしました。日本語を話すのが上手な大学生がとても多く、コミュニケーションが取りやすかったです。伝わりにくいときはジェスチャーを加えて話すと伝わりました。私は日本の伝統文化として“おりがみ”を持っていき、一緒に“鶴”を折りました。完成した時はとても喜んでくれて、私も嬉しかったです。ベトナム南部の民謡である Lý Cây Bông (リーカイボン) という歌を教えてもらいみんなで歌いました。ベトナム独特の発音でとても難しかったのですが、丁寧に教えていただき歌えるようになりました。最後に私たちからも歓迎のお返しとして SMAP さんの「世界に一つだけの花」をみんなで歌いました。みんなで歌ったのはこの時が初めてでしたが、声も大きく、みんなしっかり歌っていて、歌うのが楽しかったです。

HIVCでは大学の中を見学しました。設備が整理されていたのが印象的です。制服や作業着、機械などは会社からの支援だそうです。会社の方から学校に支援があるのはすごいなと思いました。溶接の機械は90%以上が日本製だそうです。日本製の機械はとても良いのでベトナムでも使いたいと話しており、日本人としてそう言ってもらえるのはとても嬉しかったです。HIVCの方は英語や日本語が通じず困る場面もありましたが、伝えたいことは手などを使い、体で表現をしてきちんと伝えられ良かったです。

ベトナムの学生の方と交流するのは、普通の旅行で出来るようなことではないと思うので、本当に良い体験になり良かったです。



VJCC にてカルタをしている様子

2. 企業見学

ヤクルト・ベトナム工場を見学してきました。ベトナムでは健康のためにヤクルトが普及しているそうです。ローカル社員は 583 名いるそうです（管理 25 名、営業 450 名、広報 24 名、生産 60 名）。その中で日本人社員は 7 名いるとのこと（代表者、管理 1 名、営業 3 名、工場 2 名）。

ホーチミンからハノイまで 1,800 km もの距離があり、届けるのにも時間がかかるため、ベトナムのヤクルトは賞味期限が 40 日もあるらしいです。ちなみに日本は 15 日と教えていただきました。工場を見学したときにベトナム工場で作ったヤクルトを頂き、飲みました。ベトナムのヤクルトは砂糖が入っているそうです。日本のヤクルトも昔は砂糖を使っていましたが今は使用していないそうです。なのでベトナムのヤクルトを飲んだ時、昔懐かしい味に感じました。

ヤクルト・ベトナム工場の社員さんの平均年齢は 28 歳ととても若く、一番上の方でも 40 歳を超えていないと伺いました。男女比は 3:1 で、男性の方が多いということが分かりました。また、ヤクルトは国によって 1 本分の内容量も違うということを聞き、細かい所まで考慮してあるのだなと思いました。ヤクルトにはおなかの健康を保つ大事な菌「乳酸桿菌（L. カゼイ、シロタ株）」という乳酸菌

が入っているそうです。ヤクルト 1 本に含まれる乳酸桿菌の数は 100 億だそうです。ヤクルトを飲むことによって「腸の活動を活発化させる・有害物質を抑え、腸内腐敗を防止する・病原菌の感染を防ぎ、身体の免疫力を高める・毎日の快適なお通じを促進させる」などの効果・働きがあるそうです。私は昔、ヤクルトは子供の飲むものだと思っていましたが、この話を聞きヤクルトはとても体に良い飲み物だと知りました。小学校高学年くらいから一切飲んでいなかったヤクルトですが、この見学を機にまた飲み始めようと思いました。見学の帰りにはヤクルトケースとヤクルトのキャラクターのポシエットをもらいました。とても可愛くて使いやすそうでした。



ヤクルト・ベトナム工場

3. 現地見学

日本を出て、まず観光したのはホーチミンでした。日本との時差は 2 時間でした。ホーチミン市内を見学して思ったのはスターバックスやマクドナルドなどのお店がベトナムにもたくさんあること、丸亀製麺・すき家などの日本のチェーン店もあるということにびっくりしました。そして、バイクの多さにも驚きました。ホーチミンはベトナムの首都ではないけれど人口はとても多く、ホーチミンだけで人口 1200 万人程いるそうです。バイクだけでも 900 万台あるそうで、市内を歩くと、とてもバイクが多いというのがわかります。ベトナムは水路の水が飲めないそうです。衛生的な水と水路の水の 2 つに分けられていると言っていました。日本では水道水を飲める

と聞いていたのでこれを聞いて驚きました。ベトナムにも日本のコンビニがあり、ファミリーマート・ミニストップ・セブンイレブンなどがあると聞きました。ホーチミンはベトナムの中でもコンビニがたくさんある方で、ハノイはホーチミンほどコンビニはないそうです。ベトナムに行って一番驚いたのが物価の安さです。スプライトが 600ml も入って 45 円、自動販売機の炭酸アクエリアスなんて 25 円！！でも自動販売機はおつりが返ってこないそうなので、ぴったりの額を入れないと勿体無いと思いました。それに、炭酸のアクエリアスは日本で売っているのを見たことが無かったので、ベトナムで初めて見て、飲みました。美味しかったので日本にあってもいいんじゃないかと思いました。ベトナムでは炭酸のアクエリアスの方が浸透しており、普通のアクエリアスを見かけることがなかったです。ベンタイン市場で買い物をしたときは、値引きを失敗し、すごいことになりましたが、本当に楽しく良い体験になりました。

3 日目のクチトンネル視察でトンネルの中を通りました。トンネルの中は暗く狭く怖かったです。生き抜くことの必死さなどを肌で感じました。

4 日目にホーチミンからハノイに移動をしました。ハノイには車道があり、空港の近くではバイクより車の方が多かったです。ハノイ観光ではハノイ大教会にあるステンドグラスがとても綺麗で一番印象的でした。

6 日目にバッチャン焼きの絵付け体験をしました。私はお茶碗にウサギの絵を描きました。みんな 1 人 1 人個性があり色々な柄があり見ていて楽しく良いなと思いました。次の日、仕上がったのを貰いましたが、とても上手に出来ていて嬉しかったです。自分で作ったバッチャン焼きは家でお茶碗として使っています。良い大きさでとても使いやすいです。夜には、ベトナム伝統の水上人形劇を見ました。ベトナム語で話していたので会話など細かいは分かりませんでしたが動きなどで大体伝わりました。変な動きなどもしていたので

とても面白かったです。水の上で劇をやるのは大変だなと思いましたが、水の上ならではの動きなどもあり、本当に楽しめました。

最終日には世界遺産であるハロン湾でクルーズをしました。ハロン湾はベトナムの北部にある湾です。海水はエメラルドグリーンで湾の中には熱帯雨林と石灰石からなる無数の島々があります。バスで片道 4 時間と長い距離でしたが、連日の疲労によりバスの中ではずっと寝ていました。ハロン湾に着き、船に乗りました。船が私たちだけで貸し切りだったのですごかったです。船でまず昼食を頂いた後、デッキに出ました。スコールのせいでイスなどには座れませんでした。外の景色はものすごく綺麗でした。みんなで写真を撮ったり湾を眺めたりして本当に楽しい時間になりました。クルーズの途中で鍾乳洞の見学などもしました。あれほど大きな洞窟に入ったのは初めてです。中はすごく広く涼しかったです。カメラをバスの中に忘れてきてしまったのが一番の後悔です。何万年単位の長い年月をかけて鍾乳洞の中に人が入れるようになったと考えると、とてもすごいことだなと思ったし感動しました。港に向かう時の船で、これが最後の行事だと思うととても寂しくなってきました。世界遺産であるハロン湾をベトナム研修メンバーでクルーズできたことは、本当に楽しく最高の時間になりました。



鍾乳洞の中にて

4. 感想

今回の海外研修は「初めての飛行機」「初めての海外」から始まり、本当に初めてづくし

の旅でした。飛行機では全ての座席にモニターがあり感動しました。一番窓側の席に座りましたが、窓から見える景色はとても綺麗でした。飛行機が飛ぶとき「ふわっ」として浮いたような感覚でした。どうしてあんなに大きいものが空を飛べるのかわかりませんでした。窓側の席の問題点はトイレに行くときに2人に迷惑をかけてしまうところです。

ベトナムを上空から見るとホーチミンはすごく栄えているというのが第一印象でした。ベトナム初日の夕食はディナークルーズでした。7upが一番美味しかったです。夕食を食べた後、デッキに出れたので外で涼んでいました。ベトナムでのご飯は毎回豪華でご飯の度にジュースを選んでいました。私はほとんどが7upでしたが、1回だけ7/23の昼食で挑戦をし、ココナッツジュースを飲みました。ココナッツミルクと勘違いして飲んだので予想と味が違いびっくりしました。その日の夕食では伝統舞踊のディナーショーを見ました。綺麗な女性達が踊っており私も音楽に合わせて自然と体が動きました。7/24の昼食は中華料理でした。大根もちが一番美味しくて2つも食べました。トイレがとても綺麗だったのを覚えています。

初日のホテルに着いた時から、みんなは周りの子と話していて、私は緊張していません。ときちゃんと話せるか不安になっていました。自己紹介もとても緊張しました。その日の夜、成田へ買い物に行くときに女の子達とは仲良くなれたんじゃないかと思っています。

帰りの飛行機でベトナムのハノイから成田に着き、最後はみんなと離れるのが本当に辛かったです。まさか私自身がみんなと離れるのが寂しくて泣くとも思わなかったし、1週間でこんなにも仲良くなるとも思いませんでした。携帯などもあまり使えない海外だからこそ、ここまで仲良くなれたのではないかと思っています。

私は、海外に初めて行って英語の重要さを知りました。今回、ベトナムのことを全然知らないままこの研修に来てしまいましたが、

現地に実際行き「文化・伝統」といったものを肌で感じる事ができ本当に良かったです。ベトナム語や英語を勉強し、話せるようにしたいなと思いました。そして、また海外へ行きたいと思える良い機会になりました。

今回の海外研修メンバー22人、それを支えてくださった先生方や会社の方々、本当に楽しく、学ぶ事もたくさんあり、夢が広がる研修になりました。この研修に参加することができ、心の底から良かったなと思っています。とても楽しい時間をありがとうございました。

海外研修に参加して

大阪市立工芸高等学校
プロダクトデザイン科 2年

1. ハノイ工業職業訓練短期大学

7月28日はハノイ工業職業訓練短期大学へ行きました。大学長さんから学校の成り立ちの話を聞いたり、ビデオを見たり、学校で実際に使っている機械や設備などを見学しました。機械や設備は予想以上に整っていて、迫力がありました。機械の中にはソ連から輸入してきた機械もあり、とても古いものがあったて驚きました。また卒業後は沢山の生徒が色々な企業へ就職するようで、日本の工業高校とあまり変わらない印象を受けました。



短大生との集合写真

2. ベトナム・ヤクルト工場

7月23日はベトナム・ヤクルト工場に行きました。ヤクルト誕生秘話から、ヤクルトができるまでの工程などを学びました。ヤクル

トは昭和初期、代田博士が当時の子供たちの栄養失調などを改善するために発見し、研究をした乳酸菌の一種(L. カゼイ・シロタ株)を培養して生まれた乳飲料です。

工場は工業団地内にあり、働き手にも安定している職場だと感じました。実際にヤクルトが大量に製造されている光景は非日常的であり、時間を忘れてつい見入ってしまいました。創業以来売れ続けるヤクルトにはこういった安定した工場や代田博士の思いが背景にあることを感じました。また、ヤクルトの容器は元々ガラス瓶であり、1968年にプラスチック製の容器に変更されました。プラスチック製の容器のデザインはガラス瓶がモチーフであり、容器のくびれは子供たちが持ちやすくなっていて、飲むときに液体がくびれで止まり液体が一気に流れないようにしています。ヤクルト本来の素晴らしさだけでなく、こういった容器のデザインも売れ続ける理由の一つだと思いました。



ベトナム・ヤクルト工場

3. ハロン湾クルーズ・鍾乳洞

7月27日は僕が一番楽しみにしていたハロン湾クルーズと鍾乳洞に行きました。この日は朝から雨が降っていましたが、ハロン湾に着いた頃には雨がやんで良かったです。ハロン湾クルーズでは普段経験することのできない大自然に触れることができました。船から見渡す360度に広がる海と所々にそびえ立つ島々はこれ以上ない開放感にあふれ、身体が浄化されていくような気がしました。

鍾乳洞には船に乗って40分ぐらいで着きました。鍾乳洞の中は外よりも気温は少し低いのですが、湿度がとても高くたくさん汗をかきました。鍾乳洞はテレビの番組で見たことがあったのですが、実際に見るのとは迫力が全然違いました。デザインや発想は自然の中から学んだり、インスピレーションを受けることもあるので、僕自身にとって非常にいい経験になりました



ハロン湾

4. 感想

僕にとってベトナム海外研修旅行は貴重な経験になりました。ベトナムの文化や歴史を学ぶほかにヤクルト工場を見学したり、ベトナムの大学生との交流やベトナム料理を食べたり、ほかにも数多くの経験をしました。ベトナムで経験した事は将来必ず役に立つと思います。初日は緊張していましたが、段々みんなと仲良くなり、最終日にはみんなとまだ一緒にいたい、そんな気持ちになりました。この研修は沢山の人の支えによって最高の思い出ができました。この研修で出会った友達や現地の人々に、学校の先生、研修に賛成してくれた両親に感謝したいと思います。

ベトナム研修に参加して

大阪市立西高等学校
情報科学科 2年

1. 大学見学とB&S参加学生との交流

私たちは、ベトナム日本人材協力センター

(VJCC) とハノイ工業職業訓練短期大学 (HIVC) に訪問しました。

VJCC で交流した学生は日本語が上手くとても驚かされました。話を聞いたところによると、私が話した学生は、日本で働くことが夢であると言っていました。この事を聞いて将来の夢をしっかりと持っているからこそ、それにつながる日本語などもとてもうまくなっているのではないかと思います。VJCC ではベトナム語の歌と一緒に歌ったり、竹とんぼを使って遊んだりしました。ベトナム語はとても難しく、現地の小学生などがよく歌う歌として紹介された歌でさえも苦戦しました。竹とんぼやベトナムでの足を使ったゲームも現地学生としましたがとても楽しかったです。

HIVC では、学内見学をしました。どの施設にもたくさんの機械が置いてあり、そしてたくさんの求人広告が貼ってありました。現地学生に見せてもらった溶接の作業ではとても激しい光が起き、鳥肌が立ちました。



HIVC での集合写真

B&S 参加学生との交流では、ドンスアン市場に行きました。ベトナムの市場では残念なことに偽物のブランド品が安価でたくさん置いてありました。また、値札が付いていることが少なく、値切ることが普通であると感じました。日本では値段が決まっていたのでとても驚きました。

2. ヤクルト・ベトナム工場視察

私たちはベトナムにあるヤクルト工場に見

学に行きました。ベトナムの工場で使われているもののほとんどは日本製でした。タンクだけでなくヤクルト菌も日本から輸入していると聞いて驚きました。

質問できる機会があったので質問したところ、ベトナムの工場で働く人の平均月収は3〜4万円と言っていました。物価が安い分給料も低いとは思っていましたがここまで差があるとは思いませんでした。



ヤクルト・ベトナム工場

3. 遺産、博物館見学

戦争証跡博物館には、けがをした姉を助ける妹の絵など、たくさんの悲しい絵や展示品がありとても考えさせられました。

最終日には鍾乳洞も見に行きました。鍾乳洞は初めて行きましたが思っていたよりも綺麗で壮大でびっくりしました。



鍾乳洞

4. 感想

今回、このベトナムへの海外研修に参加したことによってたくさんのことを学ぶことが出来ました。日本では当たり前だと思っていたものが全く違っていました。そして、ガイドさんはいましたが、やはり言葉の壁という

のは大きかったです。

私は、今回の海外研修で得たものを有効的に利用して、これからの人生に役立てていこうと思います。

海外研修で学んだこと

兵庫県立飾磨工業高等学校
基礎工学科 3年

1. ベトナム人材協力センター

ベトナム人材協力センターでは、現地の日本語を勉強しているベトナム人の学生の方と文化交流をしました。日本語を学ぶ学生たちは、思っていたよりも、日本語が上手で驚きました。

2. 統一会堂見学

以前は南ベトナムの大統領府及び官邸として使用されており、他にも大切な会談があるときに使用されていました。現在も国際会議などで使用されています。実際に行ってみると、やはり大統領が使用していただけあって、ピアノやビリヤード、ダンスフロアなどの娯楽施設があり、とても充実した建物でした。

3. 戦争証跡博物館見学

戦争証跡博物館でまず感じたことは、「枯葉剤とはなんだろう？」ということでした。話を聞いていると、枯葉剤を浴びた本人だけでなく、生まれてくる子供にも恐ろしい後遺症が残り、その影響は親子3代続くと知りました。苦しむ子供や大人の写真を見て、またベトナム戦争時の捕虜への残虐さを知り、とても怖くなりました。日本で学んだ戦争の恐怖とまた違った恐怖を感じました。

4. ベンタイン市場見学

ベンタイン市場では、ベトナムの食材や、衣類、家具などが販売されているところを見学しました。

私があまり知らなかった食材は、龍眼やドリアン、そしてランブータンです。龍眼は皮

が硬く、食べるのにはナイフが必要でした。味はとても甘くライチに近かったです。ドリアンは食べていませんが、鼻をふさぎたくなる動物が腐ったような匂いでした。ランブータンの皮は柔らかいトゲがあり、味は龍眼より控えめでした。

次に驚いたのは、ブランド品の多さです。事前にバスガイドさんから、ベトナムの市場で売っているブランド品は200%偽物と聞いていましたが、本当にグッチやシャネル、イブサンローランやヴィトンなど、それほど興味のない私でも知っている多くのブランドの偽物がありました。日本は偽物の持ち込みが禁止されているため、入国審査で止められることもあり購入できませんでした。



ベンタイン市場

5. ヤクルト工場見学

ヤクルト工場では、ヤクルトをその場で頂くことができ、日本との違いが実感できました。日本のものは砂糖が使われておらず、ベトナムで販売されているヤクルトは砂糖が使われているため、いつも飲んでいるヤクルトと比べ甘く感じました。

6. クチトンネル見学

日本語解説付きの映像で、過去のクチトンネルと戦争の様子を知ることができました。トンネルの全長は250キロあり、見学できる

のはそのうちの約数十メートルでした。トンネルはとても狭く、アメリカの大きな兵隊では通れないと感じました。見学できない内部には多くの落とし穴など、多くの罠が張り巡らされていました。村人たちはそこに潜みながら生活していたため、学校や病院、市場もあり、弾丸、地雷などの武器や、軍服なども製造していました。食料はすべて自給自足しており、村人が一致団結して戦っていた様子が伺えました。



クチトンネル

7. 感想

最初は海外も初めてだし、東京まで1人で行けるだろうか、といった不安な気持ちを持って参加しました。しかし、いざ東京のホテルに着くと積極的に声を掛けることができ、すぐに他の学校の人たちと話せるようになりました。その後、ミーティングで一人一人の意見を聞き理解し合えたことで、仲良くなれたことがとても気持ちよかったです。出発直前にはとても仲良くなっていて、不安よりも楽しみの方が大きくなっていました。私たちがここまで仲良くなっていたのは先生からしても予想外だったそうです。

海外研修を通して、私が1番大切だと感じたことは、周りの仲間といかに理解し合い協力していけるかということです。今回の研修でも、はじめは1人で不安しかなかったのですが、仲間と出会い、お互いを知ったことで、海外という不慣れた土地でも積極的に現地の人たちとの交流が出来たと思います。私がアルバイトをしている職場においても同じで、

仲間で理解し合えていないと、相手に腹が立ったり非協力的になったりと効率よく仕事をこなせません。日本には「人は持ちつ持たれつ」という言葉があります。これは、「人間はお互いに助け合い生きて行こう」という意味です。つまり人は絶対に1人で生きてはいけないということです。私はこの研修で学んだ人間の協力の必要性を、身近な人をはじめ日本全体に広められればと思っています。



現地の学生さんと

ベトナム 海外研修に参加して

島根県立出雲工業高等学校
建築科 2年

1. ベトナム日本人材協力センター

研修4日目に訪れたのはホーチミン市にあるベトナム日本人材協力センターです。ここではお互いの国の伝統的な文化を体験し、日本側は竹トンボを紹介しました。私たちよりも上手に飛ばせているベトナムの学生もいて驚きました。ベトナム側からは「ダーカウ」というゲームを教えてくださいました。バドミントンのような羽の先端に丸いプラスチック（オセロの駒よりも大きいようなもの）がついていて、そこをリフティングする要領で足を使って相手にパスをし、それを落とさずに続けていく、というゲームでした。足を使うことが難しくルールを変更してもらい手を使ってやりましたが、私たちには難しく、何度やってもなかなかできませんでした。それでもベトナムの学生は優しく教えてくれ、最

後までダーカウを楽しむことができました。竹とんぼは現地の方々もすごく喜んでいて、私たちも楽しむことができました。



ダーカウをしている様子

はじめはお互いに緊張をしていましたが、自己紹介、文化交流、それぞれのプレゼントなどにより最後にはとても仲良くなっていました。ベトナムの学生はとても素直で感じたことや思っていることを慣れない日本語で一生懸命に話してくれました。その姿に心を打たれ、私もその気持ちに伝えたいと思いました。私たちの友達感覚でさらっと会話をする「伝える」ではなく、心で分かり合う「伝える」ということとの大きな違いを、ベトナムの学生の姿から学ぶことができました。本当によくしていただき、いい経験になりました。

2. ヤクルト・ベトナム工場

研修3日目のヤクルト・ベトナム工場視察は、日本人で工場長でもある岩男健仁さんに案内をしてもらいました。最初にベトナムのヤクルトを飲んで、日本のよりも甘味を感じ、日本との違いは何だろうと思いました。その違いに他の学生たちも気づいていて質問をしていました。その理由は、砂糖が入っているか入っていないかといういことでした。日本はそのまま乳酸菌を使い砂糖を加えず、ベトナムはそれにさらに砂糖を加えて甘さを出します。

ベトナム工場の人数は583名で生産者が

60名ほどだそうです。確かに工場の中には多くの人が生産しているようには見えませんでした。たくさんのタンクを少ない人数で操作しているそうです。日本人も工場で7人働いていて、日本とベトナムの関わりをこの視察で少し感じることができました。

また、ベトナムでヤクルトを普及させるために昭和40年からYL（ヤクルトレディ）がベトナムの各地を回って訪問販売をして、どんどんヤクルトを進出させていきました。こういった取り組みから、ベトナムの子供からお年寄りの方々までの健康が保たれているんだと思いました。もっとヤクルトが普及して大人になっていく子供たちが元気に育っていけばいいなと思いました。



ベトナム産砂糖入りヤクルト

3. 戦争証跡博物館

ベトナムに着いた日、ホーチミンにあるベトナム侵略戦争の歴史を見ることができる博物館に行きました。館内は13のブースに分かれており、それぞれのテーマごとに展示がしてありました。その中でも特に印象に残ったブースについて書きます。

最初に6のブース「侵略戦争の罪悪」についてです。そこには見るに絶えない酷い光景が壁いっぱいに設置されていた写真に広がっていました。枯れ葉材の余波で体の形が変わってしまった人たちの写真を、息をするのも忘れて見ていました。友達と見ていましたが、

お互い言葉も出せず、ただその写真を見てこの戦争がどのくらい痛々しく悲惨だったのかを感じました。覚悟はしていましたが、予想以上にむごいもので心が締め付けられました。

次に、12のブース「ベトナム侵略戦争の捕虜制度」についてです。そこにはベトナムの捕虜が住んでいたであろう倉庫のような建物と、アメリカの兵士が上にのぼって捕虜たちを見下ろすことができる牢屋の様子がありました。石垣のように高く積んである壁には圧迫感を感じ、建物一つ一つには冷たさを感じました。模型や写真を見て、本当にこんなことがあっていいのか……と思い、そのブースを出ようと思いました。すると、同じ研修生の一人が、「そこにギロチンあるよ」と私たちに声をかけてきました。ギロチン！？と驚き、置いてあるものを見ましたが、とても怖くてすぐにそこから離れてしまいました。しっかり見ることはできませんでしたが、こんなものが昔使われていたのだと思うと、恐ろしいです。

私は小学生の時、平和学習として広島を訪れて戦争のことを学んできたつもりでしたが、まだまだでした。いろいろな被害があり、余波があり、それを変えようとする支援が多くある。そのことを改めて知ることができました。もう二度と同じ過ちを繰り返してほしくないです。今後の日本もどうなっていくのかとても不安です。今は願うことしかできないけど、将来は今回の経験をふまえてまだ戦争の余波で苦しんでいる人の支援をしたいと思える見学でした。

4. 感想

一週間という短い研修期間で、多くのことが学べました。スケジュールもハードで体調が優れないときもあったけど、先生や周りの友達が支えてくれて最後まで研修を乗り切り無事に日本に帰ることができました。たった一週間なのにみんなととても仲良くなれて、先生も解散するときに泣いてくれました。私もすごく仲良くなった子との別れがつかずぎ

て号泣しました。ベトナムのこの研修に参加できたことを、校長先生に感謝したいです。今年のこの研修でしか出会えない縁に感謝です。この友達たちで本当によかった。レベルの高い方たちと学べたこともとても刺激になりました。ベトナムで学んできたこと、友達たちから得たものを今後の学校生活に生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。



ハノイ空港での集合写真

海外研修に参加してみて

Cố gắng tham gia đào tạo ở nước ngoài

広島県立福山工業高等学校
機械科 2年

1. 学校見学

ベトナム日本人材協力センター

交流会では、かるたゲームや竹とんぼ、そしてベトナムの方々と一緒にベトナムの民謡をベトナム語で歌い、交流を深めました。

何より感心した事は、ベトナムの方は日本語が大変上手であったことです。私たちは日本語で自己紹介をしましたが、ベトナムの方は、皆さん理解しており、勉強の大切さが分かりました。

ハノイ工業職業訓練短期大学

旋盤や自動溶接機などの施設を見学しました。安全作業の確認についての説明や設備を見学しましたが、安全対策は、万国共通だと実感しました。

2. 企業見学

ヤクルト・ベトナム工場視察

ベトナムでヤクルトを製造するにあたり、工夫している点など説明をしていただきました。

その後、実際にヤクルトをつくっている工場を見学し、ベトナムのヤクルトを試飲しました。日本のヤクルトとは違い、砂糖が入っていて少し甘かったですが、日本のヤクルトも昔は同じ様に甘かったと聞き、とても驚きました。



共にベトナムで過ごした仲間たち

3 現地見学

現地見学では、多くの場所に行きましたが、その中でもクチトンネルが一番印象に残っています。クチトンネルはベトナム戦争で、アメリカとの戦いのために造られたもので、そこには、ベトナムが使っていた罾や落とし穴がありました。ベトナムの人々の工夫があり、独立を維持して生活を守りたいというベトナムの方々の気持ちを強く感じる事が出来ました。



激戦地クチ秘密の入口(ベトナム人男性実演)

4. 感想

私の本研修での一番の学びは、自分の思いを伝えることの大切さです。言葉の通じにくい海外で、どのように自分の思いを伝えるか、そのためには、いかに相手の様子をしっかりと見て、相手を理解し、自分の思いをしっかりと伝えることが大切です。思いが伝わった時の喜びは、忘れられない思い出となりました。

海外研修報告

～ 8 日間の研修で得たもの ～

香川県立観音寺総合高等学校
電子科 3年 正木 洸太

1. 学校見学

研修2日目にベトナム日本人材協力センターを訪れた。ここでの異文化交流は私にとって良い経験になった。特に、日本から持参した竹とんぼを使った交流では、とても喜んでいただけて嬉しかった。ほとんどの学生の方は3年ほどしか勉強していないにもかかわらず、日本語が非常に上手で驚いた。かるたゲームでは、言葉のハンディも感じないとてもいい試合ができた。このようなゲームを通して楽しく交流を深めることができた。



ベトナム日本人材協力センターにて

ハノイ工業職業訓練短期大学では、工業学校の設備を見て回った。溶接ロボットのような、日本の工業高校ではあまり見るもののな

い設備を見学できた。この学校の運営には多くの海外の企業が協力しているそうだ。特にサムスンには、毎年、多くの学生が就職しているそうだ。私はグローバル化が進んでいることを実感し、日本ももっとアジア各国との技術協力に力を入れていくべきだと感じた。

2. 企業見学

ハノイ郊外にあるヤクルトの工場を訪れた。この工場では600人の従業員のうち日本人は7人しかいないと知り、とても驚いた。

ベトナムのヤクルトは日本のヤクルトより甘い。これは、国民の嗜好に合わせて、ベトナムでは砂糖を使い、日本ではブドウ糖を使っているからだと知った。

代表である岩男健二氏に外国人の方々とうまくコミュニケーションを取る方法について尋ねると、「その国の文化を尊重することだ」と教えてくださった。外国人の方とだけでなく、どんな時でも相手を尊重する気持ちを忘れずにいたい。

3 現地見学

戦争証跡博物館には、ベトナム戦争の被害の状況や、枯葉剤などの影響で今でも続いている後遺症などに関する資料が展示されていた。

クチトンネルでは、実際に戦争で使った罫を見たり、トンネルに入ったりした。ベトナム戦争の悲惨さ、また、争いの無意味さを強く感じた。

ベトナムの市内散策では、日本とは異なる活気を感じた。特に、ホーチミン市のベンタイン市場やハノイ市のドンズアン市場では、歩くのにも困るほどの人々で溢れている市場の雰囲気圧倒された。また、ジャコウネコのコーヒーやバッチャン焼きなどの日本では見ることのない商品を見ることができて楽しかった。活気ある市場と、そこでたくましく生活している人々の姿から、急速に発展していく国、ベトナムを感じる事ができた。

最終日のハロン湾クルーズでは、研修の緊

張が取れ、心から楽しむことができた。曇っていたのは残念だったが、世界遺産の雄大な光景に目を奪われた。また、鍾乳洞は、日本とは違い、蒸し暑かったが、その蒸し暑さを忘れるほど美しかった。



ハロン湾の鍾乳洞

4. 感想

初めての海外研修であり、出発までは、ベトナムでどのような体験ができるかという期待と不安が入り混じっていた。しかし、ベトナムに到着し、日本とは異なる光景、匂いに触れ、異なる文化を楽しんでいくうちに、不安は徐々に薄れていった。研修中には、現地の方々とは英語で会話し、市場では店員と値下げ交渉を行って買い物もした。このような体験を通して、外国人と接することへの抵抗が少なくなり、少しだけ自分に自信を持つことができた。

そして何よりも、この研修に参加していた21人のメンバーがみな個性的で楽しかった。さまざまな工業高校の特徴や地域の文化を知り、自分の視野が広がった気がする。また、この研修メンバーとの交流のおかげで、電気工学や情報に関する私の専門分野を、もっと深く学ばなければならないと改めて感じた。加えて、工業デザインなどの新たな分野にも関心を持つようになった。後輩たちもこの海外研修に参加して、私のような素晴らしい経験をして欲しい。

最後に、工場見学をさせていただいた社員の皆様、現地の学生の方々、海外研修で知り

合ったメンバー、この研修を企画して下さった全国工業高等学校長協会の先生方、現地ガイド、添乗員の皆様、両親、この研修に関して相談に乗って下さった本校の先生方に深く感謝したいと思う。

海外研修に参加して私が得たもの

福岡県立小倉工業高等学校
電子機械科 2年

1. 現地の学校について

私たちは、研修プログラムで現地の学校の「ハノイ工業職業訓練短期大学 (HIVC)」へ行きました。この学校はハノイにある工業大学で、旋盤やプログラミングについて学んでいるところです。私は自分の学校と比べるような感覚で見学していました。やはり、設備は完璧とは言えませんが、日本には無いような安全について考えるための工場があり、そこにはヘルメットの強度確認をする機械や、重い荷物を持つときに腰を痛めないようにするための試験場などがありました。そのような点については、日本よりも安全意識が高く、何よりも話すだけでなく実際に目で見たり体験したりすることが大切だと感じました。



安全実習工場の様子

2. 現地企業を訪れて

私たちは、企業見学として、ヤクルト・ベトナム工場に行きました。工場見学の前にヤクルトをいただきました。このヤクルトは

実際にベトナムで売られているもので、飲んでみると日本のヤクルトより甘かったです。これは現地の人の口に合うように製造していると聞きました。こういった工夫で世界中から求められているのだと思いました。また、日本の工場よりは小さな工場でしたが、無駄なスペースを少しも作らず、細かなところまで有効に使っていることが日本ももっと考えていくべきだと思いました。

3. ベトナムの街について

ベトナムの街は、とてもバイクの量が多く、車に比べると圧倒的なほどです。しかし、事故のような光景は、滞在中に見かけることはありませんでした。また、物価は、ホテル付近のコンビニエンスストアではジュース一本 50 円ととても安く、お菓子などたくさん買っても 500 円程度で済みました。また、ベンタイン市場にも行きました。ここでは、日本にはなかなか無いような雰囲気や露店が多く並んでいました。店の人の愛想もとてもよく、値段交渉にも英語を利用して挑みました。すると、半額近くまで落とすことができ、おかげでたくさんのお土産を買うことができました。全体的に町の人も愛想よく日本人を歓迎してくれるような感じで生活しやすかったです。



夜の街の様子

4. 研修を終えて

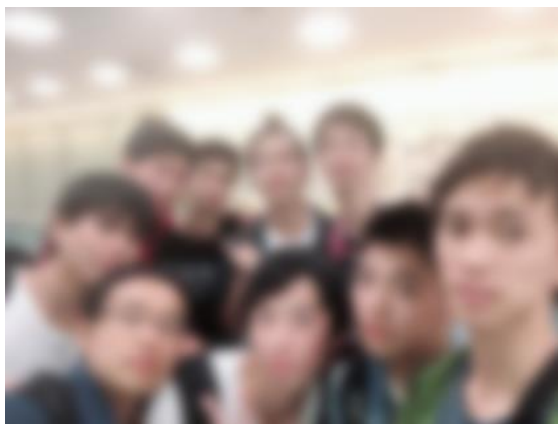
私は、研修が始まる前まで、メンバーとうまくやっていけるか、無事に帰ってこられる

のかとても不安でしたが、日を追っていろいろな友達ができ、また、ベトナムでも友達ことができました。

そして、実際に来て見て知ったベトナムは自分の思っていたベトナムとは全く違いました。イメージですべてを決めるのではなく、実際に目で見るのが大切だと思いました。

最後に、こうやって自分の人生に貴重な記憶を残すことができたのはとても幸せなことであり、この研修がきっかけで全国、世界に友達ことができました。毎日が楽しく、新鮮で、あっという間の一週間になりました。帰国後、朝起きると一人ということにも寂しさを感じました。解散の時に悲しくて泣いてしまいましたが、またきっと集まれると思います。みんなでもう一度発展したベトナムを訪れてみたいと思います。これからも自分の夢に近づき、グローバルな人間となれるように努力します。

今回、このような貴重な体験をする機会を与えてくださった公益社団法人全国工業高等学校校長協会並びに引率と指導をいただいた関係者の皆さまに心からお礼申し上げます。



研修の仲間たち

ベトナム研修記

佐賀県立佐賀工業高等学校
電子情報科 2年

1. 学校見学

研修3日目にホーチミンにあるベトナム日本人材協力センターを訪問しました。ここの

学生が日本語を話せることに驚きました。学生さんと話していると、日本で働きたいと言っていました。こんな優秀な学生が日本に来たいと言ってくれるのがうれしいとともに、やばいなと思いました。これから様々な国の優秀な人材が世界で活躍していくので、自分も負けられないと思いました。現地の学生さんはとても親切でたくさんのことを教えてもらいました。外国人とのコミュニケーションの面白さを実感しました。

研修4日目に訪れたハノイ工業職業訓練短期大学では、旋盤作業や自動車の修理、製作などとても高いレベルで作業していました。その中でもスマートフォンの修理には驚きました。今、私たちにとって最も身近である電子機器であり、需要は絶えません。どんどん技術が向上していくこの世界で、今の世界が求めているものを感じ取り、行動することがこれから必要とされる1つの能力だと感じました。

さらにすごいのが労働安全のための施設があったことです。工場で働く上で想定される様々な事故を防ぐための対策を就職する前から学べることは、とても良いことだと思います。

また、大学のごみ箱がペンギンの形になっていたり、スポーツカーのような車を作っていたり、技術の高さと同時に遊び心も感じました。ものづくりにとって大切なことをたくさん学びました。この経験をこれからの進路に活かしていきたいと思います。

この日の午後の B&S プログラムでは、実際に現地の学生と一緒にグループで活動することになり、コミュニケーションを取りながら、ハノイの町で買い物をしたりしました。現地の学生さんは日本語がとても上手でコミュニケーションには困りませんでした。その会話の中でベトナムについていろいろ教えてもらいました。インフラがまだまだ発展途上であること、流行っていること、地価など、現地でしか得られない情報を聞くことができました。町にはピカピカの高層ビルがあって

ブランド物を売るお店ばかりでした。ハノイの都市部はかなり発展していてびっくりしました。最後にベントイン市場で買い物をする際には現地の学生さんに値段交渉してもらいました。本当に楽しかったです。

学校見学では、学生1人1人が高い意識と向上心を持っていて、とても刺激を受けました。これからの社会の担い手としてともに頑張ろうと思いました。



ハノイ工業職業訓練短期大学の様子

2. 企業見学

日系企業のヤクルトの現地工場を見学しました。ヤクルトの製造工程や体内における働き、歴史などを学ぶことができました。代田イズムを継承し、様々な種類のヤクルトを製造しています。このヤクルトは砂糖が使われていて、日本より甘いです。ここで働くには、かなり頭が良くないといけないそうです。



ヤクルトの工場にて

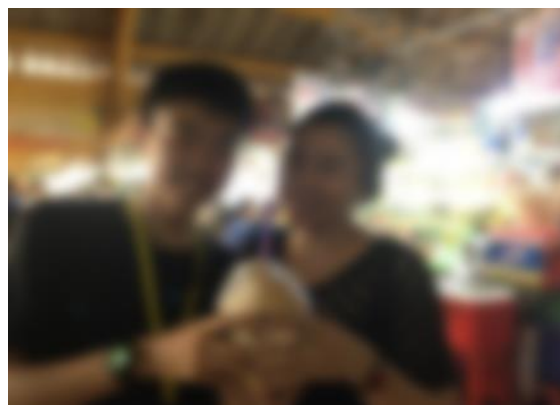
工場の中はとても清潔で、従業員の意識も高く、様々な規格をクリアしていて、掃除や

品質管理なども徹底しており、完璧な工場でした。工場内で説明をしていただいた現地の方は日本人かと思うほど日本語が上手で、日本の企業のことや日本人の働き方についても熟知していらっしゃる印象を受けました。

3. 観光

ベトナムの町は、日差しが強く、バイクや人の声でいっぱい、ものすごいエネルギーを感じました。フランスの植民地時代に入ってきた文化が多くあり、ベトナムの街並みはまるでフランスに来たかのようなオシャレな建物がたくさんありました。それは食文化にも表れていてフランスパンがおいしかったです。ベトナムでは移動手段のほとんどがバイクなので、バスで移動しているとき、ぶつかりそうぐらいバイクが走っていて、道路を横断するときは命がけでした。

特にベトナムの市場は露店が密集していて、面白かったです。先生と市場を歩いていたときココナッツを売っている人に声をかけられて買うことにしました。ココナッツの実にストローがささったやつがそのまま出てきて、勇気を出して飲んでみたらとてもおいしかったです。飲み終わった後店員さんと少し話をして写真を撮らせてくれました。客引きから飲み終わる最後までサービスが良くて、まさにプロの商人でした。



市場での1枚

ベトナムの市場はとてもフレンドリーで活気がありました。市場のなかでは日本の商売との違いがたくさんあり、新鮮な買い物を楽

しむことができました。とくに値段交渉は面白かったです。値札がないので、店員に直接交渉するとき、日本人と分かった瞬間、平気で10倍ぐらいの値段を要求されるのでこれでもかというぐらい下げさせました。値段交渉してかなり安くなったと思っていたらそれでも定価の3倍でした。

ハロン湾はベトナムの世界自然遺産になっています。海に突き出た山が無数にあり、龍が降りた場所とも呼ばれています。とても神秘的な風景で今にも龍が顔を出してきそうなほどでした。島の1つにある鍾乳洞は、不思議なほど美しい空間が広がっていて、自然が作り出したパワーに包まれているようでした。いまだにこのような空間が残っているのは、ここの地域に地震などの自然災害が起こらないからだそうです。すべてがロマンにあふれていて冒険家のような気分でした。心がゆさぶられた体験ができてうれしかったです。



ハロン湾

4. 感想

研修中ずっと考えていたことがあります。それは、今の自分の心の弱さです。初めての海外でもあって、不安や恐怖がたくさんありました。今までとは異なる環境下に最初はとても混乱しました。この研修で私は自分の心と対峙して様々なことを学びました。その中でこれからの自分の進路など、将来的な自分設計にもなりました。これから自分の人生を生きていく上で最も大切なものは、自分自身の強い意志だと思います。迷いを自分自身で断ち切り、前を向いて行動する力を養うこと

ができました。本当に有意義な1週間でした。

全国から来た仲間たち、個性豊かな先生方と一緒に旅ができて本当に楽しかったです。私は5日間でこの魅力的なベトナムの町や人が大好きになりました。また絶対行こうと思います。この経験は一生忘れない宝物になりました。本当にありがとうございました。

ベトナム海外研修に参加して

愛知県立半田工業高等学校
土木科 教諭

1. はじめに

昨今、日本におけるグローバル化が進み外国人の方との関わりが深くなっています。その中でベトナム社会主義共和国（以降ベトナム）と日本の関係も深くなってきています。海外拠点を設置している日本企業のベトナム拠点設置割合は25.2%となっており、それは中国、タイ、米国について第4位（※1）の割合となっています。また日本における外国人労働者の割合は図1のようになっており中国について第2位（※2）の割合となっています。このように日本とベトナムとの関係が深まっている中でベトナムに訪問できたことは、大変有意義であったと感じています。

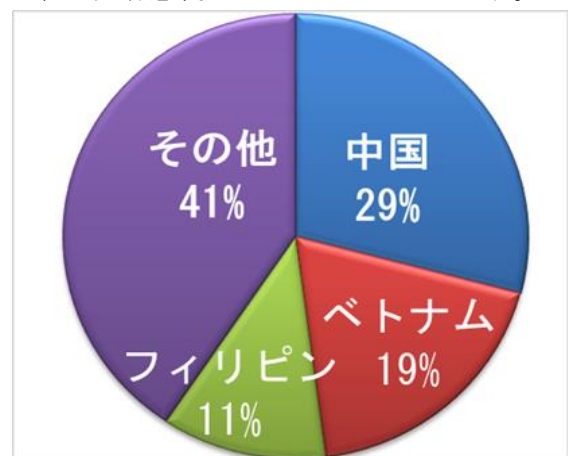


図1 国籍別外国人労働者の割合

2. ベトナムについて

現在、ベトナムのGDPは約2,400ドル（2018年頃）となっています。衣食住を基準とした生活が豊かになり、自動車購入が急激

に進み普及するといわれる GDP3,000 ドルを迎える前の ASEAN 新興国、ベトナムへの訪問は、学ぶことが多いと考えていました。実際の街での主な交通手段は自動車ではなく、二輪車が使われていることを目の当たりにすることで GDP3,000 ドルを迎える前であると実感しました。また、それはエンジン音、クラクション、生活の中でのにおいなどからも体感できました。



ベトナム通勤時間帯の様子

3. 学校見学

学校見学では、ハノイ工業職業訓練短期大学 (Hanoi Industrial Vocational College) を見学させていただきました。この学校訪問について、学長から歓迎の言葉を頂きました。

この学校において千葉県の工業高校と「機械系技術技能教育の指導力向上プロジェクト」で交流していることを知り、日本との関わりについて教えていただきました。日本の工業高校がベトナムに貢献しているということを誇りに思いました。



学長とチーバくん

施設見学では、日本の工業高校のような旋盤が並ぶ実習室や新しい技術であるロボット溶接を学べる実習室などを見学させていただきました。

4. 企業見学 ヤクルト・ベトナム工場

日系企業のヤクルトの製造工場を見学させていただきました。工場では日本人のファクトリーマネージャーからベトナムにおけるヤクルトとのかかわりについての説明を受けた後、参加生徒が積極的にヤクルトの方の的確な質問をしていたのが強く印象に残っています。また担当の方も親身になって回答していただき、充実した見学となりました。

工場は非常に綺麗で清潔に保たれていました。日本企業であるヤクルトが、製品を通じてベトナムの方に貢献していると思うと嬉しく思いました。工業高校卒業生が海外で社会貢献してくれたら、もっと嬉しく思います。

5. 現地見学

今回の研修では、ベトナムの2大都市であるホーチミンとハノイを訪問することができました。それぞれの都市で市内見学やベトナムの方との交流をさせていただき、1回の訪問で2都市を同時に見学できたことは、両都市の違いについても感じる事ができ、良い経験となりました。

ベトナム日本人材協力センター (VJCC) では、日本語を学んでいるベトナムの大学生と、日本語での自己紹介やカルタなどを通して交流を深めました。その中でベトナム人の奥ゆかしさと、打ち解け始めればフレンドリーで優しい国民性であることを実感しました。ベトナムと日本の関係が、今後より深まって、お互いに協力し合える関係になると良いと感じました。

6. 感想

このベトナム研修では、マスメディアを通じて感じる事の出来ない「国の熱気」、「雰囲気」、「におい」などを感じることが出来

した。そのことにより、大変有意義な研修となりました。

ベトナムは、フランス様式と中国様式が混在する文化や街、またヨーロッパで使われているアルファベットの文字を使い、中国のような旧暦で正月を祝う文化などがあります。日本と異なった文化を持っているベトナム。その異なった文化を互いに尊重しあいベトナムと日本の良好な関係が今後も継続されることを願っています。それに対し工業高校卒業生が、何らかの形で貢献してもらえたら嬉しいです。

最後に、21名の生徒たちと参加できたことも、大変嬉しく思いました。訪問先、見学先では、主体的に生徒が質問していました。多くの生徒達が質問することで自分が疑問に思っていたこと以外にも、幅広く知ることができ深い学びの場となりました。また、学ぶときは落ち着いて学び、交流では積極的に交流できたことで、雰囲気の良い参加者であったと感じています。参加生徒同士で、それぞれ声を掛け合いながらベトナムについて話合っている場面もありました。私も声を掛けてもらったりして話しができ、ベトナムについて対話的に学びました。色々と、生徒と話しができ嬉しかったです。

今後、全員で会う機会を持つということは難しいと思いますが、それぞれ生徒達が工業高校卒業生として活躍することを期待しています。この海外研修に参加させていただきありがとうございました。

参考資料

※1「2017年度 日本企業の海外授業展開に関するアンケート調査」

日本貿易振興機構（JETRO）

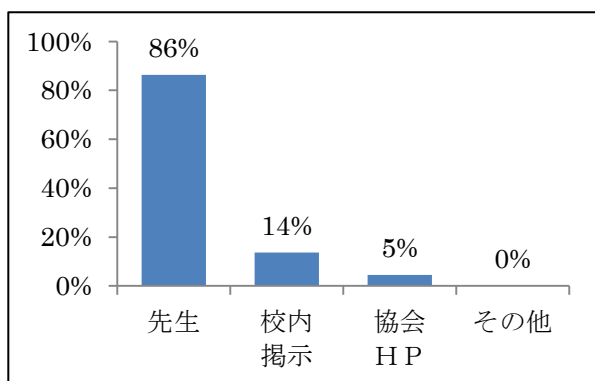
※2「外国人雇用状況」の届出状況まとめ

（平成29年10月末現在）厚生労働省



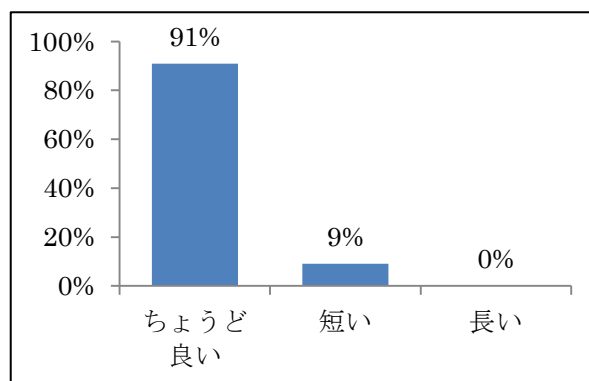
8. アンケート結果

1. 海外研修はどこで知りましたか？



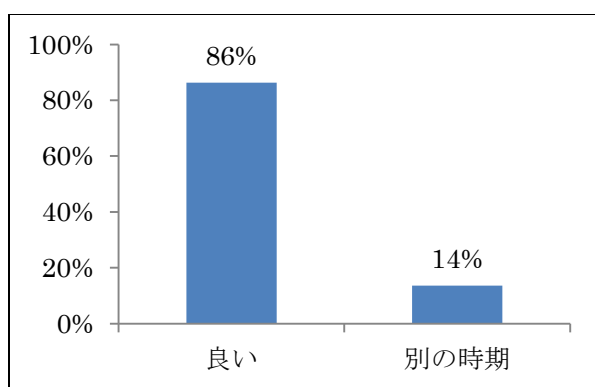
※複数回答有り

2. 期間（7日間）はどうでしたか？



【短い】7日間希望—2人、10日間希望—2人

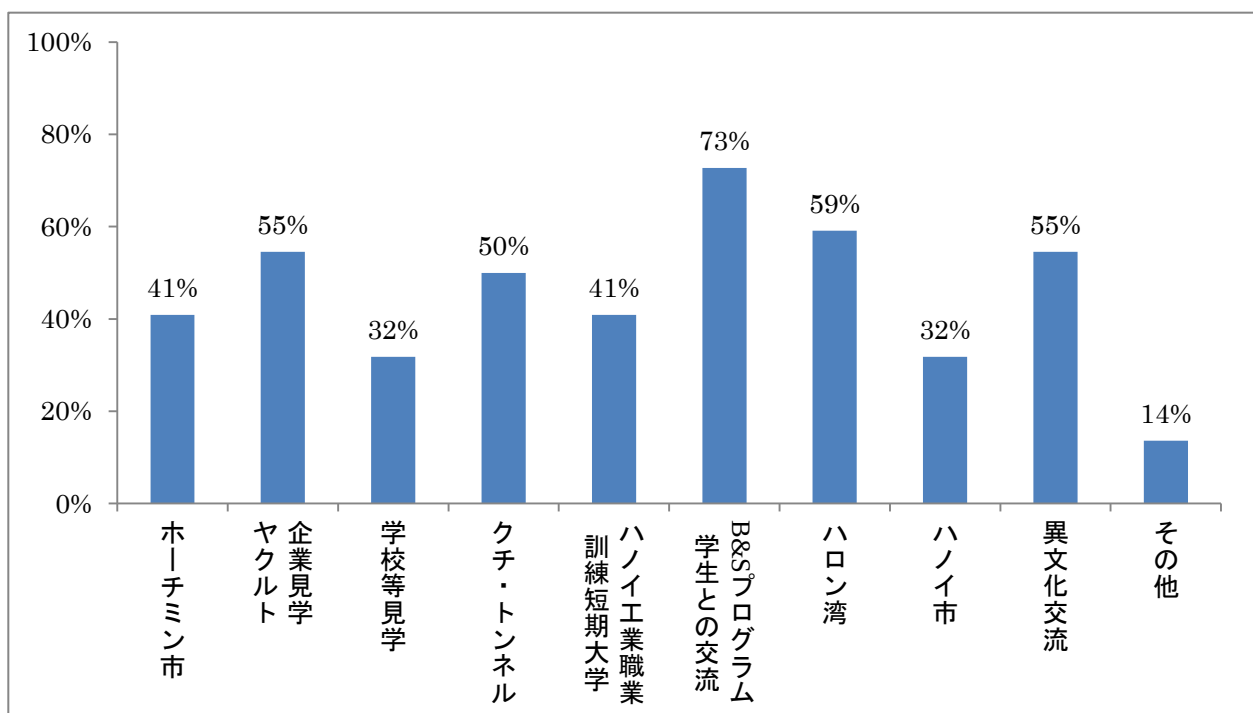
3. 時期はどうでしたか？



【別の時期】7月頃希望—1人、9月頃希望—2人
10月頃希望—1人、3月頃希望—1人



4. 訪問先で良かったところをお答えください（複数回答可） ※次ページに訪問先ごとの感想



—① ホーチミン市について

- 統一会堂など。
- 市場を歩くなどして、今の主要な産業がどのようなものかを見ることができた。
- 市場で買い物をすることによって、より自然に現地の人とコミュニケーションをとることができた。
- ディナークルーズがものすごく楽しかったです。ホーチミン市の夜景がキレイ。
- 統一会堂、戦争歴史博物館。
- 最初のベトナムの光景だったので、日本とは違いすぎて衝撃がありました。
- 統一会堂、戦争歴史博物館。戦争証跡博物館、中央郵便局、大教会等の視察。
- 変わった街並みに多くの歴史的建造が残っていました。素敵な風景や多くの歴史を感じることができました。

—② 企業見学（ヤクルト）について

- ふだん見ることができない工場内を見ることができて良かった。
- 日本の企業の理念が、外国でどんな影響を及ぼすかを知ることができた。
- 海外で活動している日本企業の細部まで知ることが出来た。
- 日本にもある企業なので、飲み比べができた。
- ヤクルトの作り方を知れて、また昔の味のヤクルトが飲めて嬉しかったです。
- 日本との違いや工夫を知ることが出来た。
- 日本のヤクルトの味より甘めだった。
- 日本とベトナムのヤクルトの違いが分かった。
- 担当の方も親身に回答をしていただけて有意義な見学、説明等を受けることができました。
- みんながヤクルトとベトナムの関わりについて興味を持ち積極的に質問をしていた。

—③ 学校等見学について

- 日本語が上手な人がたくさんいてすごいと思った。私もベトナム語を勉強したい。
- ベトナムの方々と上手に文化交流できたと思う。
- 日本とは違った対策もあり、見ていて面白

かった。

- 外国人の学生の方々と上手く交流できてよかった。

—④ クチトンネルについて

- ベトナム戦争について。
- ベトナムの歴史をより一層知ることができた場所だと思う。この後、博物館に行ったのも良かった。
- 実際に使われていたトンネル等に入ることができて勉強になりました。
- 実際に使われていたものを見て体験することが出来た。
- トンネルの中が暑くて少し怖かったけれど、良い体験になりました。
- ベトナム人のアメリカ軍に対する工夫、武器、トンネルなど。
- 戦争の時の怖さが良く分かった。
- 戦争を勝ち抜くための力と知恵がすごい。実際に見ることができて良かった。
- 実際にトンネルを体験できたから。

—⑤ ハノイ工業職業訓練短期大学について

- 韓国企業の支援が大きく、もっと日本からの大きな支援が必要では、と感じた。
- 事故防止のための安全対策について学べる教室を見た。
- 海外の工業大学を見学できて、安全装置の部屋など非常に勉強になりました。
- ベトナムの方も日本と同じように学んでいる。
- 体調不良で見ることができませんでした。その生徒の方が私たちをほめてくれてうれしかった。
- 様々な国の企業が資金や技術を提供していることを知った。
- 今のベトナムの高い技術力など今後の世界に対する工業の在り方を知ることができました。
- 通常の海外旅行では見学できない施設等を見学でき、より深くベトナムの状況を知ることができました。

—⑥ B & S プログラム（学生との交流）について

- ☐ ベトナムと日本との違いを知り、知識を増やすことができた。
- ☐ 市場、ショッピング。
- ☐ 実際にコミュニケーションを取りながら、市場やスーパーでの買い物を楽しめた。
- ☐ 現地の大学生の方との買い物が楽しく、色々なことを学べました。
- ☐ たくさんコミュニケーションを取ろうとしてくれるし、ベトナムを知れる。
- ☐ 現地の人との交流ができ、簡単なベトナム語を教えてもらった。
- ☐ 一緒にご飯を食べたり、買い物をしたりしたこと。
- ☐ 日本語がとても上手くすごいと思った。
- ☐ ベトナムの方との協力ができて良かったです。
- ☐ 日本を勉強している女の人たちと一緒に、ショッピングモールに行ったり、市場に行ったり、予想外のことが多くて驚いた。
- ☐ 現地の人と共に買い物し、交流できたから。
- ☐ 日本では会うことの難しい方々と交流できてよかった。
- ☐ 最も良かったプログラムでした。日本語が話せる現地の大学生であるベトナムの方と、一緒に百貨店、スーパー、市場をめぐることができ「交流」「市場調査」「ベトナム人と日本人との感覚の相違」を学ぶことができた。

—⑦ ハロン湾について

- ☐ 幻想的な景色を見ることで、人間と言おうものを考えさせられた。
- ☐ 鍾乳洞。
- ☐ 世界遺産の名に恥じぬ素晴らしい景色だった。また、ベトナムに行く機会があれば必ず訪れたい。
- ☐ ベトナムの街並み以外の景色を見ることができた。
- ☐ とてもキレイで感動した。
- ☐ 貸し切りで楽しかったです。晴れてくれてよかった。

- ☐ とてもきれいでゆっくりと楽しむことができた。
- ☐ 他の川などとは透明度などが違った。
- ☐ 船に乗ってハロン湾を一周したときの風が気持ちよかった。晴れていてくれたらよかったのについて思いました。
- ☐ 景色がきれいだった。
- ☐ 壮大な自然を感じることができました。クルーズはけしきが見やすくてよかったです。

—⑧ ハノイ市について

- ☐ ホーチミン市との違いを探してみる、ということもできた。首都だけあって、ビルも多かった。
- ☐ 大協会がものすごく綺麗だった。ステンドグラスがキレイ。
- ☐ 都市部ですごく栄えていた。
- ☐ ベトナムの首都で町も整備されていてきれいだった
- ☐ ほかの町に比べ発展が感じられました。都市部は佐賀よりも進んでいて新鮮でした。

—⑨ 異文化交流について

- ☐ ベトナムの文化を知り、日本の文化を発信できた。
- ☐ 現地の人と交流することにより、文化の違いなどを知ることができる。
- ☐ 日本語を学んでいる現地学生は、とても発音が上手で、かつフレンドリーだった。
- ☐ 現地学生との交流が深まった。連絡先を交換することもできた。
- ☐ ベトナムの学生さんとの交流ができて良かった。
- ☐ ベトナムの生徒さんと話すことが出来て、とても良い機会となりました。
- ☐ 日本の昔からの遊びを楽しんでもらえたし、ベトナムの遊びも知ることが出来た。
- ☐ 折り紙を一緒に折ることが出来て楽しかった。
- ☐ ベトナムの学生さんとの交流
- ☐ 世界に一つだけの花。
- ☐ ベトナムの文化は面白い。私はベトナムの

文化が好きでした。竹とんぼも折り鶴も喜んでくれてうれしかった。

□バッチャン焼きが非常に難しかった。

—⑩ その他

□初めての飛行機に乗れて楽しかった。また乗りたい。

□建築が日本と格段に違っていて、見ていておもしろかった。その話も合間に聞けてよかった。

□街を歩いたり、コンビニでの買い物、イオンへ行ったり、自販機での飲み物の購入などは現地の生活を体験できた。バス移動などでも街の様子や人々の生活など車窓から見学できた。

5. 意見・感想

□本研修ではまずベトナムよりも先に日本全国の人達と交流し、自分の文化以外の文化を知ることができて良かった。その後、ベトナムの文化に触れられたので良かったと思う。

□日本全国に友達ができたことで心強くなった。そして、その人たちとの交流を通して自分自身もステップアップできたと思う。

□一週間にわたり現地の人や料理、文化などを知り、日本との違いや似ているところなどに気づいて驚いたりして、とても関心を持つことができた。

□ホテル、プログラムと何から何までよかった。外国への抵抗心がなくなるくらい楽しかった。次はないが、積極的に外国へ行きたいと思った。

□初の海外だったが意外と萎縮したり緊張したりはしなかった。まだまだ拙い英語ではあったが、必要な場面での最低限のコミュニケーションはとれた、というのが一番の成果なのかもしれない。

□何よりも無事に帰れるというのが嬉しく思う。

□強いて言えば、かなり暑かったのでさらに対策を練っておくべきだったと持っている。次回、アジアなどの蒸し暑い場所に行く際は

気を付けたい。

□ベトナムの学生が英語以外の日本語もかなり上手く使いこなしていることに驚いた。英語も曖昧な私たちは見習わないといけないと思った。

□衛生面での不安もあったが、お腹を壊すような体調不良は特になかった。しかし、食事に虫が入っていることは珍しくないので注意が必要だと思った。

□異文化交流やB&Sプログラムの際に現地学生と連絡先を交換することができたので、今後のグローバル活動に活用したいと思っている。

□自分の人生で初めての海外研修だったので、とても良い体験になりました。

□次もベトナム日本人材協力センターの人たちとの交流を取り入れてほしいです。

□一言で楽しかった。勉強になった。

□様々なことを学ぶことが出来ました。人間関係や日本の便利さ、ベトナムの文化など、普段の生活では体験できないことばかりだったと思います。この貴重な体験をたくさんの周りの人に伝えていければ良いです。ありがとうございました。

□初日から参加者の皆と打ち解けることが出来て、緊張することがなく、楽しい研修旅行だったと思います。

□料理は日本では味わえない味付けが新鮮で、特にフォーや生春巻きがとても美味しかったです。

□一週間は長いようであつという間でした。

□企業見学はヤクルトの工場ではなくて、もっと工業の実習でやるような仕事を、現地の社員にさせている企業を見てみたかった。

□最初はみんなぎこちない感じだけど、3日目ぐらいには打ち解け合っていて、すごく楽しい1週間だった。

□調べただけでは学べないような歴史や文化を体験したり、現地の人との交流の中で実際の生活を見ることが出来ました。そして、それを一緒に行ったみんなと共有することで、同じように感じていたり、違った視点から見

て考えていたことを知り、客観的に見る事が出来ました。とても良い経験になり楽しかったです。

□行く前は不安で少し怖かったけれど、着いてからは楽しくて本当に帰りたくないなと思いました。

□訪問先がたくさんあり、とても勉強になりました。

□海外にまた行きたいなとも思えたり、ベトナムにもまた行きたいなとも思いました。

□飛行機の乗り方も分かって良かったです。

□とても濃い1日だった。ベトナムをこの体で感じたが、世界が期待する国だという理由が分かった様な気がする。

□日本と比べ若い人が圧倒的に多かった。

□ベトナムはフランス植民地の影響が建築物や食文化に現れていると感じました。

□初めての海外で、本当にたくさんのことを知ることが出来た。思っていたよりも日本と海外の違いは大きく、特に市場ではその違いが良く現れていると思った。とても大きな経験・知識となった。これからの人生につなげていきたい。

□最初はみんなと仲良くできるかなあとか、ベトナムでうまくやっていけるかなあという不安がありましたが、ホテルでみんなと話したら、そんな不安はもうどうでもよくなり、私も頑張ろうと思いました。

□ベトナムは予想では発展途上国というイメージでしたが、実際に行ってみると全然違いました。都市部はすごく栄えていて、村では機械類を使つての作業が少ないように思いました。

□ベトナムに訪れる前はベトナムに対して少し怖いイメージがあつて不安だったけど、訪れてみると技術の発展に励んでいる姿を見受けられて、進んでいっているんだなと感じました。

□興味深い建築物があり、じっくり見て、何が違うのか考えることが出来ました。

□このような研修に参加できてとても良かったと思いました。全国の工業生との交流を深

めながら学んでいくこの研修はとても素晴らしいものです。ありがとうございました。

□最初は初めて会う人たちと上手にやっていけるのか、海外でしっかり生活できるのかという不安がありましたが、全国から集まった人たちは、皆同じ目的を持っていたのですので仲良くなり、一週間という短い間でしたがとても良い海外研修になりました。

□初めての海外でとても緊張したが、新しくできた友人達、また引率してくださった先生方のおかげで、充実した海外研修になった。機会があればベトナムにまた行きたいです。

□もう少し工業に関する研修先を増やしてほしい。

□初めての海外で、ベトナムがどんな国かもわからない状態で入国し、とても不安でしたが、思っていたイメージとは大きく違って、実際に訪れことは大切だと感じました。そして、これからもたくさんの国に訪れたいと思いました。

□今回はこのような貴重な体験ができてうれしかったです。初の海外がベトナムで、このメンバーで良かったです。この研修で得たものを心から大切にしようと思います。

□大変、有意義なベトナム海外研修となりました。ありがとうございました。少子高齢化を迎えている日本は海外の労働力人口を必要としている。その中で日系企業はベトナムに注目している。特に製造業などではベトナムの生産拠点をつくり、建設業などではベトナム人を日本国内で雇用している。そのように労働力人口として日本の産業を支えてくれているベトナムに今回、工業高校として研修に参加できたことは大変、有意義なこととなりました。

9. 結びに

第18回海外研修は、参加生徒21名（男子15名、女子6名）、教員1名、引率3名、で無事に実施できました。参加者はじめ、ご支援いただいた保護者・学校関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

最近、ブログやSNS等の活用で研修中の様子が情報共有できるようになり、参加者のご家族や学校関係者にとっては、リアルタイムで安全が確認できたことと思います。

本協会の海外研修は、第1回～10回がオーストラリア、第11回～15回までがカナダ・アメリカで実施してきましたが、第16回からは地理的に比較的近く、経済発展の著しい東南アジアに研修先を変更しました。第18回も、前回に引き続きベトナム社会主義共和国を訪問しました。夏に熱い東南アジアを訪問することは、肉体的にも負担が大きかったにもかかわらず、感想やアンケートを見ますと大学や企業の訪問、ベトナム戦争の戦跡や世界自然遺産のハロン湾の見学、現地学生との交流など、とても充実した研修ができたことがよくわかります。東南アジア諸国には日本企業が数多く進出しています。特にベトナムは、歴史的にも日本とのつながりは古く親日的な国で治安も安定しています。近年は目覚ましい経済発展をしており、活気あふれるベトナムの雰囲気を感じられたと思います。参加者はじめ皆様のご協力に感謝を申し上げます。

世界中でテロや紛争が起こっており、国際社会の政治情勢が不安定な状況にあります。同時にあらゆる分野でグローバル化が進み激動の時代を迎え、工業だけでなく様々な分野において海外で活躍できる人材が求められています。このようなことから今後の海外研修については、国際化事業推進委員会を中心に多くの皆様からご意見をいただきながらさらに工夫改善を図り充実したいと考えます。

この海外研修は、参加した生徒の皆さんにとって高校時代の多感な思春期の海外体験として貴重な機会であったと思います。それぞれの高校生活及びこれからの人生に役立つことを期待するとともに参加した皆さんの今後の活躍を心から祈念します。

（この報告書は、本協会のホームページにも掲載します）

国際化事業推進委員会委員

委員長	早川 信一（多摩工業高校長）	事務局	山田 勝彦（全工協会事務局長）
委員	山本 康義（三郷工業技術高校長）		石井 末勝（全工協会事務局次長）
	小松 一正（清水高校長）		鈴木 賢二（全工協会事務局次長）
	鴻野 誠（中野工業高校長）	引 率	山本 康義（三郷工業技術高校長）
	居石 博幸（藤沢工科高校長）		川邊 美恵（足立工業高校）
			滝本 直美（六郷工科高校）